

(様式第 10)

岡大病総第 100 号
令和 3 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人岡山大学長
榎 野 博 史

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目 1 番 1 号
氏 名	国立大学法人 岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号	電話(086)223-7151
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科
4腎臓内科		
8代謝内科		
診療実績		
呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については内科において提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科において提供している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	⑦	・	無
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科	⑧小児外科
診療実績			
呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については外科において提供している。 また、消化器外科で提供される医療については消化管外科及び肝・胆・膵外科において提供している。			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑦	・	無
歯科と組み合わせた診療科名			
①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科			
歯科の診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 消化管外科	3 肝・胆・膵外科	4 形成外科	5 小児神経科
6 病理診断科	7 リハビリテーション科			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
34床	2床	床	床	817床	853床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	312 人	310.9 人	622.9 人	看 護 補 助 者	45 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	93 人	72.3 人	165.3 人	理 学 療 法 士	28 人	臨床検査技師	70 人
薬 剤 師	74 人	0 人	74 人	作 業 療 法 士	8 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	5 人	そ の 他	0 人
助 産 師	30 人	0.7 人	30.7 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	976 人	11.6 人	987.6 人	臨 床 工 学 士	24 人	医療社会事業従事者	3 人
准 看 護 師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	46 人
歯科衛生士	16 人	0 人	16 人	歯 科 技 工 士	7 人	事 務 職 員	405 人
管理栄養士	9 人	0 人	9 人	診療放射線技師	56 人	そ の 他 の 職 員	38 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	43人	眼 科 専 門 医	7人
外 科 専 門 医	22人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精 神 科 専 門 医	9人	放射線科専門医	9人
小 児 科 専 門 医	11人	脳神経外科専門医	5人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	8人	麻 酔 科 専 門 医	16人
産婦人科専門医	10人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	169人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (前田 嘉信) 任命年月日 令和3年4月1日

医療事故防止委員会委員 平成29年7月1日～令和元年5月31日

医療安全管理委員会委員長 令和3年4月1日～現在

医療安全管理委員会委員 令和元年6月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	548.2人	12.9人	561.1人
1 日当たり平均外来患者数	1563.7人	531.8人	2095.6人
1 日当たり平均調剤数	998.3剤		
必要医師数	146.7人		
必要歯科医師数	29人		
必要薬剤師数	19人		
必要（准）看護師数	351人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	m ² 1,161.6	鉄筋コンクリート	病 床 数	60床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 236.1 m ² [移動式の場合] 台 数 ー 台		病床数	23 床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床 積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 ー			
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動化学発光免疫測定装置, 生化学自動分析装置 外	
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 全自動細菌同定感受性検査装置, 孵卵器 外	
病理検査室	195 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, クリオスタット 外	
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 遺体保存用冷蔵庫 外	
研 究 室	4,443 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー, クリーンベンチ, 冷蔵庫, 冷凍庫, 中央実験台 外	
講 義 室	904 m ²	鉄筋コンクリート	室数 5 室	収容定員 598 人
図 書 室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	蔵 書 数 220,600 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		86.7%	逆紹介率		123.0%
算出根拠	A：紹介患者の数		17,291人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		25,955人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,007人		
	D：初診の患者の数		21,109人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会（会長）	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 ☒ 無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所（弁護士）		法律に関する識見を有するため	有 ☒ 無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学（名誉教授）		医療を受ける者の代表者	有 ☒ 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有・無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有・無
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	28人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	1人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	0人
水素ガス吸入療法	0人
腎血管筋脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるものに限る。)	1人
内視鏡的エタノール局所注入療法	2人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	12人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名	患者申出療養 経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 全身麻酔導入後、通常は、RFA治療前にセンチネルリンパ節生検を施工する。RFAの手技はUSで腫瘍を確認し穿刺部位をまず決定する。続いて、US画像をガイドとして電極針を穿刺部位より腫瘍に刺入して、ジェネレーターというラジオ波発生装置に接続し、通電を開始する。1回の通電につき通常10分前後でインピーダンスが上昇し、通電完了する。通電終了後は電極針を抜去する。USを再度撮像し、治療効果および合併症の有無を観察し、治療終了となる。RFA施行後、数週間後より通常の乳房照射を追加し局所治療を終了する。			
医療技術名	患者申出療養 マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 本治療は、遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常を有することが判明した患者の申出に基づき、当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	6	56 ベーチェット病	77
2 筋萎縮性側索硬化症	37	57 特発性拡張型心筋症	90
3 脊髄性筋萎縮症	5	58 肥大型心筋症	22
4 原発性側索硬化症	0	59 拘束型心筋症	2
5 進行性核上性麻痺	15	60 再生不良性貧血	18
6 パーキンソン病	217	61 自己免疫性溶血性貧血	1
7 大脳皮質基底核変性症	6	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8 ハンチントン病	8	63 特発性血小板減少性紫斑病	12
9 神経有棘赤血球症	0	64 血栓性血小板減少性紫斑病	0
10 シアルコー・マリー・トウース病	1	65 原発性免疫不全症候群	12
11 重症筋無力症	82	66 IgA 腎症	50
12 先天性筋無力症候群	0	67 多発性嚢胞腎	36
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	42	68 黄色靱帯骨化症	8
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	69 後縦靱帯骨化症	67
15 封入体筋炎	1	70 広範脊柱管狭窄症	9
16 クロウ・深瀬症候群	0	71 特発性大腿骨頭壊死症	28
17 多系統萎縮症	22	72 下垂体性ADH分泌異常症	18
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	74	73 下垂体性TSH分泌亢進症	1
19 ライソゾーム病	9	74 下垂体性PRL分泌亢進症	19
20 副腎白質ジストロフィー	2	75 クッシング病	11
21 ミトコンドリア病	4	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22 もやもや病	51	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	39
23 プリオン病	0	78 下垂体前葉機能低下症	136
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	3
25 進行性多巣性白質脳症	0	80 甲状腺ホルモン不応症	0
26 HTLV-1関連脊髄症	0	81 先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27 特発性基底核石灰化症	1	82 先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	25	83 アジソン病	0
29 ウルリッヒ病	0	84 サルコイドーシス	91
30 遠位型ミオパチー	0	85 特発性間質性肺炎	47
31 ベスレムミオパチー	0	86 肺動脈性肺高血圧症	44
32 自己食食空腔性ミオパチー	0	87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
34 神経線維腫症	35	89 リンパ脈管筋腫症	14
35 天疱瘡	19	90 網膜色素変性症	16
36 表皮水疱症	3	91 バッド・キアリ症候群	4
37 膿疱性乾癬(汎発型)	9	92 特発性門脈圧亢進症	1
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93 原発性胆汁性肝硬変	71
39 中毒性表皮壊死症	0	94 原発性硬化性胆管炎	9
40 高安静脈炎	25	95 自己免疫性肝炎	31
41 巨細胞性動脈炎	9	96 クローン病	205
42 結節性多発動脈炎	10	97 潰瘍性大腸炎	381
43 顕微鏡的多発血管炎	40	98 好酸球性消化管疾患	3
44 多発血管炎性肉芽腫症	29	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	16	101 腸管神経節細胞減少症	0
47 パージャール病	4	102 ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103 CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	203	104 コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	94	105 チャーヅ症候群	0
51 全身性強皮症	73	106 クリオビリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	28	107 若年性特発性関節炎	6
53 シェーグレン症候群	17	108 TNF受容体関連周期性症候群	1
54 成人スチル病	8	109 非典型溶血性尿毒症症候群	1
55 再発性多発軟骨炎	5	110 ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	3	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113 筋ジストロフィー	9	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	1
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	8	167 マルフアン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシビタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	3
122 脳表ヘモジドリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	1	177 ジュベール症候群関連疾患	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	1
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	1
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	1	188 多脾症候群	2
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	3
140 ドラベ症候群	1	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	3	194 ソトス症候群	0
145 ウェスト症候群	2	195 ヌーナン症候群	1
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203 22q11.2欠失症候群	3
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	13	208 修正大血管転位症	2
159 色素性乾皮症	2	209 完全大血管転位症	3
160 先天性魚鱗癬	2	210 単心室症	11

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	2	272 進行性骨化性線維異形成症	0
212 三尖弁閉鎖症	2	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	274 骨形成不全症	4
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	275 タナトフォリック骨異形成症	0
215 ファロー四徴症	10	276 軟骨無形成症	1
216 両大血管右室起始症	4	277 リンパ管腫症/ゴーハム病	0
217 エプスタイン病	3	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218 アルポート症候群	2	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
219 ギャロウェイ・モワト症候群	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
220 急速進行性糸球体腎炎	0	281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
221 抗糸球体基底膜腎炎	2	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
222 一次性ネフローゼ症候群	39	283 後天性赤芽球癆	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224 紫斑病性腎炎	7	285 ファンconi貧血	0
225 先天性腎性尿崩症	0	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	287 エプスタイン症候群	0
227 オスラー病	7	288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
228 閉塞性細気管支炎	1	289 クロンカイト・カナダ症候群	2
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230 肺胞低換気症候群	0	291 ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
231 α 1-アンチトリプシン欠乏症	2	292 総排泄腔外反症	0
232 カーニー複合	0	293 総排泄腔遺残	0
233 ウォルフラム症候群	0	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
235 副甲状腺機能低下症	2	296 胆道閉鎖症	8
236 偽性副甲状腺機能低下症	1	297 アラジール症候群	1
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298 遺伝性膝炎	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6	299 囊胞性線維症	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300 IgG4関連疾患	9
240 フェニルケトン尿症	1	301 黄斑ジストロフィー	0
241 高チロシン血症1型	0	302 レーベル遺伝性視神経症	0
242 高チロシン血症2型	0	303 アッシャー症候群	0
243 高チロシン血症3型	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
244 メーブルシロップ尿症	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
245 プロピオン酸血症	0	306 好酸球性副鼻腔炎	43
246 メチルマロン酸血症	0	307 カナバン病	0
247 イソ吉草酸血症	0	308 進行性白質脳症	0
248 グルコーストランスポーター1欠損症	0	309 進行性ミオクロームステんかん	0
249 グルタル酸血症1型	0	310 先天異常症候群	0
250 グルタル酸血症2型	0	311 先天性三尖弁狭窄症	0
251 尿素サイクル異常症	1	312 先天性僧帽弁狭窄症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
254 ポルフィリン症	0	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316 カルニチン回路異常症	0
256 筋型糖原病	0	317 三頭酵素欠損症	0
257 肝型糖原病	0	318 シトリン欠損症	0
258 ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259 レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260 シトステロール血症	0	321 非ケトース型高グリシン血症	0
261 タンジール病	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262 原発性高カイトミクロン血症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263 脳腫黄色腫症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
264 無 β リボタンパク血症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
265 脂肪萎縮症	0	326 大理石骨病	0
266 家族性地中海熱	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
267 高IgD症候群	0	328 前眼部形成異常	0
268 中條・西村症候群	0	329 無虹彩症	0
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
270 慢性再発性多発性骨髄炎	2	331 特発性多中心性キャッスルマン病	3
271 強直性脊椎炎	10	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・オンライン診療料	・後発医薬品使用体制加算2
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1及び2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算2のイ
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料(一般)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料(精神科)	・精神疾患診療体制加算
・救急医療管理加算	・精神科急性期医師配置加算2 イ
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料4
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料1及び3
・医師事務作業補助体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2及び4
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1及び2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・BRCA1/2遺伝子検査
・糖尿病合併症管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料イ、ロ及びハ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・糖尿病透析予防指導管理料	・国際標準検査管理加算
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・腎代替療法指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ニコチン依存症管理料	・胎児心エコー法
・療養・就労両立支援指導料 注3 相談支援加算	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・皮下連続式グルコース測定
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1及び2	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・脳波検査判断料1
・薬剤管理指導料	・神経学的検査
・医療機器安全管理料1及び2	・補聴器適合検査
・精神科退院時共同指導料2	・ロービジョン検査判断料
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料の加算)	・コンタクトレンズ検査料1
・歯科治療時医療管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・持続血糖測定器加算 間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合及び間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合	・センチネルリンパ節生検(片側)
・遺伝学的検査	・経気管支凍結生検法
・骨髄微小残存病変量測定	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・人工腎臓
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・導入期加算2
・精密触覚機能検査	・透析液水質確保加算
・画像診断管理加算1及び3	・慢性維持透析濾過加算
・歯科画像診断管理加算1及び2	・手術用顕微鏡加算
・遠隔画像診断	・口腔粘膜処置
・CT撮影及びMRI撮影	・う蝕菌無痛的窩洞形成加算
・冠動脈CT撮影加算	・CAD/CAM冠
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・外傷全身CT加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・乳房MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・処理骨再建加算
・頭部MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・外来化学療法加算1	・椎間板内酵素注入療法
・連携充実加算	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・無菌製剤処理料	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・リンパ浮腫複合的治療料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・網膜再建術
・精神科作業療法	・人工中耳植込術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・補助人工心臓
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を越えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・同種死体肺移植術	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生体部分肺移植術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・内視鏡下筋層切開術	・体外衝撃波胆石破碎術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔縫合閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膵腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・同種死体肝移植術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・コーディネート体制充実加算
・生体部分小腸移植術	・同種クリオプレシピテート作製術
・同種死体小腸移植術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・口腔粘膜血管腫凝固術
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・レーザー機器加算の施設基準
・同種死体腎移植術	・麻酔管理料(I)及び(II)
・生体腎移植術	・歯科麻酔管理料
・膀胱水圧拡張術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・人工尿道括約筋植込・置換術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術要支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則4(性同一性障害の患者に対して行うものに限る。)に掲げる手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)及び子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)	・口腔病理診断管理加算2
・輸血管理料 I	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変量測定	・マルチプレックス遺伝子パネル検査
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間約150回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 17例 / 剖検率 6.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腫瘍免疫活性化遺伝子REICによる肺癌の革新的免疫療法の開発	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	4,160,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎症における糖鎖異常とその病態的意義	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	5,980,000	補	日本学術振興会
肺癌微小環境のクロストークによる免疫抑制を標的とする次世代ウイルス製剤の開発研究	藤原 俊義	消化管外科	5,850,000	補	日本学術振興会
ダメージ関連分子パターンに着眼した肺線維化関連疾患に対する新規治療法の開発	豊岡 伸一	呼吸器外科	5,330,000	補	日本学術振興会
新規の癌抗原CD147を標的とする適応免疫最適化と尿路性器腫瘍での応用展開	那須 保友	泌尿器科	4,160,000	補	日本学術振興会
解剖生理学エビデンスに基づく下肢リンパ浮腫の画像機能評価と新たな手術戦略	木股 敬裕	形成外科	2,860,000	補	日本学術振興会
リンパ浮腫画像診断に基づいた新・複合的理学療法—AI技術によるキャズム克服—	品岡 玲	形成外科	10,530,000	補	日本学術振興会
ドライバー遺伝子陽性肺癌が依存するパスウェイを標的とした次世代精密医療の開発	富田 秀太	ゲノム医療総合推進センター	6,630,000	補	日本学術振興会
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	渡部 昌実	新医療研究開発センター	7,540,000	補	日本学術振興会
輸送幹細胞の肺組織内集積反応により遊出される心筋再生促進因子の同定と実用化研究	王 英正	新医療研究開発センター	5,850,000	補	日本学術振興会
コラーゲン結合型FGF-2による水平性歯槽骨吸収に対する歯周組織再生療法の開発	高柴 正悟	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
iPS干渉法を応用した歯胚発生メカニズムの理解と歯の再生技術への応用	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	4,160,000	補	日本学術振興会
基底膜構成分子の誘導制御による低侵襲角化歯肉獲得療法の確立	前川 賢治	歯科(口腔インプラント科部門)	4,160,000	補	日本学術振興会
顎関節症ならびに疲労愁訴を伴う疾患における、AIを用いた筋疲労の定量評価	皆木 省吾	歯科(補綴歯科補綴部門)	6,500,000	補	日本学術振興会
民族移動のボトルネック経過後の食物、環境の変化による顔面形成の共進化について	上岡 寛	矯正歯科	2,860,000	補	日本学術振興会
顎顔面領域骨代謝性疾患におけるエピゲノム制御による新規骨リモデリング機構の解明	井澤 俊	矯正歯科	3,770,000	補	日本学術振興会
生体ボリュームイメージ解析を用いた骨細胞のメカノセンサー機能獲得過程の解明	上岡 寛	矯正歯科	3,900,000	補	日本学術振興会
癌の骨破壊病変に対する銅のキレートを応用した治療戦略の構築とその制御機構の解析	佐々木 朗	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	7,150,000	補	日本学術振興会
オーラルフレイルに至るプロセスの多面的解析	森田 学	歯科(予防歯科部門)	2,340,000	補	日本学術振興会
マイクロRNAを切り口とした歯周病・糖尿病によるアルツハイマー病への影響	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
膜タンパクをターゲットとした新たな口腔バイオフィルム制御法の確立	仲野 道代	小児歯科	7,020,000	補	日本学術振興会
ビロリ菌除菌療法における腸内エコシステム破綻のメカニズムと制御	岡田 裕之	消化器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
糖鎖変化による肝癌進展機序の解明	大西 秀樹	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
プロテオーム解析に基づくエクソソームを用いたIPMN良悪性診断法の開発	堤 康一郎	消化器内科	910,000	補	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
潰瘍性大腸炎患者における免疫学的便潜血検査自宅測定の有用性の検討	平岡 佐規子	炎症性腸疾患センター	1,560,000	補	日本学術振興会
肥満症および肥満関連疾患改善のための新しい内視鏡治療法の開発	山崎 泰史	消化器内科	260,000	補	日本学術振興会
炎症性腸疾患関連腫瘍に対する非侵襲的核酸変異検出術の開発	衣笠 秀明	光学医療診療部	1,430,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤の有効性予測バイオマーカー開発ー血中自己抗体の可能性ー	松本 和幸	光学医療診療部	1,430,000	補	日本学術振興会
食道表在癌内視鏡治療後狭窄に対する多種積層化細胞シートを用いた再生治療の開発研究	安部 真	総合内科・総合診療科	2,210,000	補	日本学術振興会
成人T細胞白血病・リンパ腫におけるエピジェネティック異常の1細胞解析	岡 剛史	血液・腫瘍内科	910,000	補	日本学術振興会
慢性移植片対宿主病における単球・マクロファージの役割の解明	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
急性白血病患者に対する安全な卵巣組織移植を目指した卵巣内微小残存病変評価法の開発	藤井 伸治	輸血部	1,820,000	補	日本学術振興会
移植急性期のB細胞恒常性異常に基づく慢性GVHD発症予測と先制的治療法の開発	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,690,000	補	日本学術振興会
ニューロペプチドYを中心とした慢性閉塞性肺疾患の病態解明と炎症・気腫化制御	谷口 暁彦	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
HER2遺伝子変異がんにおける革新的なHER2標的治療法の開発	二宮 貴一朗	血液・腫瘍内科	1,040,000	補	日本学術振興会
自然リンパ球による新規造血調節機構の探索	浅田 騰	血液・腫瘍内科	1,950,000	補	日本学術振興会
EGFR肺癌のdrug-tolerant cells形成機序解明による治療法創出	藤井 昌学	呼吸器・アレルギー内科	1,430,000	補	日本学術振興会
同種造血細胞移植後GVHDと腸内細菌叢dysbiosisの発症機序解明と治療応用	藤原 英晃	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
血管新生促進因子Vasohibin-2を標的とした慢性腎臓病の新規治療法の開発	田邊 克幸	血液浄化療法部	1,430,000	補	日本学術振興会
Semaphorin3aによる糸球体上皮細胞の機能的障害機序の解明	喜多村 真治	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,170,000	補	日本学術振興会
尿細管特異的保護機構発現による糖尿病性腎臓病の新たな治療戦略の構築	杉山 斉	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,170,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクスにおけるパスピンの意義と腎尿細管間質障害の制御	中司 敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補	日本学術振興会
脂肪組織の機能不全を制御する新規蛋白の同定と病態生理的意義	江口 潤	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690,000	補	日本学術振興会
N型カルシウムチャンネルが腹部大動脈瘤発症・進展に与える分子機構の解明	内田 治仁	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補	日本学術振興会
腎不全患者におけるフレイルが予後に与える影響とその分子機構の解明	竹内 英実	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
メタボリックシンドロームにおけるmiR-221/222の機能解析	山口 哲志	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,080,000	補	日本学術振興会
マイクロRNA解析による特発性ネフローゼ症候群の病態解明と新規治療薬の開発	辻 憲二	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,170,000	補	日本学術振興会
副腎皮質におけるBMPシステムの役割と血圧調整への作用	原 孝行	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,340,000	補	日本学術振興会
ゴナドトロピン分泌へのRNA結合タンパクZFP36の役割について	寺坂 友博	内分泌センター	1,560,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
全身性エリテマトーデスの病態におけるT細胞とTankyraseの役割	勝山 隆行	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
高齢知的障害者における認知症に対する診断・評価・支援の統合的研究	寺田 整司	精神科神経科	1,430,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢の網羅的解析による統合失調症の病態解明	岡久 祐子	精神科神経科	260,000	補	日本学術振興会
自己抗体を通じた精神疾患のディメンショナルアプローチ	高木 学	精神科神経科	1,170,000	補	日本学術振興会
小児重症急性腎障害の病態解析と新規治療法の開発～生体マーカーを基軸として～	塚原 宏一	小児科	1,170,000	補	日本学術振興会
自然免疫炎症メディエーターをターゲットとしたインフルエンザ脳症の新規治療の探索	津下 充	小児科	1,690,000	補	日本学術振興会
うつ血性肝硬変に対する再生医療としての間葉系幹細胞移植療法	平井 健太	小児科	1,430,000	補	日本学術振興会
小児長期入院患者に対する1.5次予防型心理的・社会的支援プログラムの構築	重安 良恵	小児科	520,000	補	日本学術振興会
胃癌腹膜播種へ及ぼす腹腔内癌微小環境の影響と細胞外小胞体の関与	香川 俊輔	低侵襲治療センター	1,040,000	補	日本学術振興会
難治性消化器がんを標的としたホウ素中性子捕捉療法の開発と効果予測マーカーの探索	寺石 文則	低侵襲治療センター	1,300,000	補	日本学術振興会
組織内不均一性を有するHER2陽性胃癌に有効な金ナノ粒子結合抗体薬物複合体の開発	黒田 新士	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
Liquid Biopsyによる肝内胆管癌molecular subtype分類	楳田 祐三	肝・胆・膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
がん微小環境に対するPhotoimmunotherapyの前臨床研究	野間 和広	消化管外科	2,600,000	補	日本学術振興会
DNAとRNAによる複合バイオマーカーパネルを用いた肺癌治療アルゴリズムの構築	吉田 龍一	肝・胆・膵外科	1,170,000	補	日本学術振興会
胃癌腹膜播種における癌微小環境の解明と新規治療法の開発	菊地 覚次	低侵襲治療センター	1,300,000	補	日本学術振興会
高リスク神経芽細胞腫に対するテロメラーゼ標的型ウイルスを用いた複合免疫療法の開発	谷本 光隆	小児外科	1,560,000	補	日本学術振興会
腫瘍選択的融解アデノウイルスのエクソソームを介した直接的なアプスコパル効果の検討	垣内 慶彦	消化管外科	1,950,000	補	日本学術振興会
RNA編集でCold tumorをHot tumorにする新規癌免疫療法の探求	重安 邦俊	低侵襲治療センター	1,170,000	補	日本学術振興会
p53発現腫瘍融解アデノウイルス製剤と既存化学療法との免疫学的治療効果の比較	橋本 将志	消化管外科	2,210,000	補	日本学術振興会
血中マイクロRNA編集を用いた大腸癌の新規リキッドバイオプシー技術の確立	武田 正	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
EGFR結合蛋白LRIG1に着目した、EGFR変異陽性肺癌に対する新規治療戦略	山本 寛斉	呼吸器外科	1,040,000	補	日本学術振興会
乳がん診断後のライフスタイルがアウトカムに及ぼす影響を検討するコホート研究	平 成人	乳腺・内分泌外科	1,430,000	補	日本学術振興会
抗炎症関連分子Spred2に着目したマウスモデルによる移植肺機能温存法の開発	山根 正修	呼吸器外科	1,690,000	補	日本学術振興会
乳がん初期治療後の生活習慣に関する教育・運動プログラムの開発に関する研究	土井原 博義	乳腺・内分泌外科	1,950,000	補	日本学術振興会
肺虚血再灌流障害におけるS100A8/A9の役割の解明と新しい治療法の開発	岡崎 幹生	呼吸器外科	1,950,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性胸部悪性腫瘍の炎症性癌微小環境を標的とした画期的抗体療法	豊岡 伸一	呼吸器外科	1,560,000	補	日本学術振興会
MET異常肺癌に対する新規治療戦略の開発	諏澤 憲	呼吸器外科	1,040,000	補	日本学術振興会
高ヒスチジン糖タンパク質に着目した肺線維化疾患に対する新規治療法の開発	塩谷 俊雄	臓器移植医療センター	1,690,000	補	日本学術振興会
心停止ドナーからの肺移植後虚血再灌流障害のトランスレーショナルリサーチと治療応用	岡崎 幹生	呼吸器外科	5,850,000	補	日本学術振興会
BNCT併用メラノーマ複合免疫療法へ向けた前臨床探索研究と新規ホウ素薬剤開発	山崎 修	皮膚科	1,690,000	補	日本学術振興会
乾癬病変部表皮角化細胞産生EBI3含有サイトカインに関する研究	森実 真	皮膚科	1,560,000	補	日本学術振興会
表皮角化細胞Toll様受容体3を標的とした皮膚ウイルス感染症の新規外用薬の開発	天田 藍	皮膚科	2,340,000	補	日本学術振興会
種痘様水痘症の早期治療介入マーカーと γ δ T細胞による重症化制御機構の検討	三宅 智子	皮膚科	650,000	補	日本学術振興会
乾癬病変部表皮角化細胞産生p19含有サイトカインの検討	杉原 悟	皮膚科	1,430,000	補	日本学術振興会
膀胱再生を目指した排尿平滑筋幹細胞の創出とその応用	渡邊 豊彦	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
REIC/Dkk-3遺伝子による前立腺細胞増殖制御機構に関する研究	高本 篤	泌尿器科	1,560,000	補	日本学術振興会
制限増殖型アデノウィルスを用いた次世代遺伝子治療の基盤研究	小林 泰之	低侵襲治療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
膀胱癌に対する革新的アブレーション技術の確立と応用展開	枝村 康平	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
PDE5阻害薬タダラフィルは腎虚血再還流障害の革新的治療となるか？	荒木 元朗	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
新機序にもとづくエフェクターT細胞活性化と革新的癌創薬への展開	定平 卓也	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
乳酸菌バイオサーファクタントを用いた反復性/難治性膀胱炎の予防的治療の新戦略	岩田 健宏	泌尿器科	910,000	補	日本学術振興会
末期腎不全における皮膚色素沈着原因物質の同定と除去カラムの開発	丸山 雄樹	泌尿器科	1,560,000	補	日本学術振興会
ISPSを用いた精巣内薬剤投与による造精機能障害治療	富永 悠介	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
ゲノム編集技術を用いた網膜における長寿遺伝子の機能解明:加齢黄斑変性の予防戦略	森實 祐基	眼科	1,560,000	補	日本学術振興会
難治性網膜疾患に対する網膜下薬物投与の検討	木村 修平	眼科	1,170,000	補	日本学術振興会
網膜に対するメカニカルストレスの分子生物学的機構の解明	塩出 雄亮	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
ゲノム編集技術を用いたレーバー先天黒内障の病態解明	細川 海音	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
急性感音難聴の病態と治療における内耳免疫メカニズム-内耳遺伝子転写網の解析-	前田 幸英	耳鼻咽喉科	1,040,000	補	日本学術振興会
加齢性難聴マウスにおける炎症性サイトカインの内耳ゲノム発現網	假谷 伸	耳鼻咽喉科	1,690,000	補	日本学術振興会
難聴児における音韻障害の遺伝学的診断法と言語発達評価法の開発	菅谷 明子	耳鼻咽喉科	520,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アスピリン不耐症に合併する好酸球性副鼻腔炎におけるIL-22の制御機構の解析	檜垣 貴哉	耳鼻咽喉科	650,000	補	日本学術振興会
がん遺伝子シグナル経路の網羅的解析による頭頸部がんの病態解析と新規治療法の開発	牧野 琢丸	耳鼻咽喉科	1,040,000	補	日本学術振興会
嗅細胞障害による異嗅症の分子学的治療戦略	村井 綾	耳鼻咽喉科	780,000	補	日本学術振興会
唾液腺導管癌の個別化治療へ向けた癌ゲノム解析研究	安藤 瑞生	耳鼻咽喉科	1,690,000	補	日本学術振興会
CT透視下IVR用針穿刺ロボットにおける半自動穿刺システムの開発	小牧 稔幸	放射線科	1,430,000	補	日本学術振興会
マイクロ波焼灼術の豚肺を用いた基礎研究ー肺癌患者への適応拡大に向けてー	生口 俊浩	放射線部	650,000	補	日本学術振興会
超高精細CTと遺伝子多型による放射線肺炎リスク因子の検討	勝井 邦彰	放射線科	390,000	補	日本学術振興会
高分子多糖類を使用した新規血管内塞栓材料の開発	宇賀 麻由	放射線科	1,430,000	補	日本学術振興会
人工知能を用いた腎腫瘍画像診断支援システムの開発	田中 高志	放射線科	260,000	補	日本学術振興会
子宮体部癌肉腫新規革新的新規治療戦略の構築	中村 圭一郎	産科婦人科	1,560,000	補	日本学術振興会
周産期からの先制医療にむけた代謝エピゲノムの解析とバイオマーカーの開発	増山 寿	産科婦人科	1,430,000	補	日本学術振興会
子宮内膜症における病巣周囲脂肪組織炎症の存在	久保 光太郎	産科婦人科	1,170,000	補	日本学術振興会
糖尿病妊婦の個人の代謝に合わせた、合併症を抑制するテーラーメイド栄養管理の開発	衛藤 英理子	産科婦人科	650,000	補	日本学術振興会
糖代謝異常によって誘導されるPKC β 活性化の妊娠高血圧腎症発症と増悪における意義	光井 崇	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振興会
選択的Neuregulin1阻害による化学療法誘発性末梢神経障害の治療法の開発	松岡 義和	集中治療部	1,690,000	補	日本学術振興会
術後せん妄と周術期二酸化炭素管理の関連について	鈴木 聡	集中治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
一酸化窒素吸入は中大脳動脈閉塞ラットの神経学的予後を改善させるか？	谷西 秀紀	麻酔科蘇生科	2,210,000	補	日本学術振興会
大動物敗血症モデルを用いた敗血症性腎傷害発生・進展メカニズムの解明	小坂 順子	麻酔科蘇生科	1,170,000	補	日本学術振興会
高度侵襲手術における血漿タンパクHRGの変動	黒田 浩佐	麻酔科蘇生科	1,430,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬と抗VEGF抗体との併用効果について検証	杉生 憲志	IVRセンター	1,430,000	補	日本学術振興会
くも膜下出血後早期脳損傷の病態解明と脳低温療法の脳保護効果の検討	菱川 朋人	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
カプセル化細胞移植で細胞治療のメカニズムに迫る:脳梗塞後うつ症状への応用	安原 隆雄	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
マウス脳腫瘍モデルのin vivo 環境での継代による、腫瘍溶解性ウイルスの開発	藤井 謙太郎	脳神経外科	1,300,000	補	日本学術振興会
HMGB1蛋白はもやもや病手術モデルにおいて血流改善効果をもたらすか？	平松 匡文	脳神経外科	1,040,000	補	日本学術振興会
パーキンソン病に対する迷走神経刺激療法の治療開発を目指す	佐々木 達也	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
YAP/TAZによる膠芽腫微小環境の構築機序の解明	畛田 篤仁	脳神経外科	2,340,000	補 日本学術振興会
卵巣と中枢を繋ぐ生殖内分泌モデュレーターBMPの分子機能解析	大塚 文男	総合内科・総合診療科	1,300,000	補 日本学術振興会
医学生・臨床研修医の「物語能力」教育プログラム開発のための調査研究	小比賀 美香子	総合内科・総合診療科	1,170,000	補 日本学術振興会
ミャンマーのカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌を分子疫学・地政学的視点で解明する	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	1,560,000	補 日本学術振興会
総合診療における高IgG4血症の臨床的および血清学的特徴の解析	長谷川 功	総合内科・総合診療科	650,000	補 日本学術振興会
膵臓内細菌と膵房導管異形成に着眼した膵癌発生メカニズムの解明	赤穂 宗一郎	総合内科・総合診療科	1,430,000	補 日本学術振興会
RAGE-aptamer封入ナノ粒子による肺高血圧症の新規治療法の開発	中村 一文	循環器内科	520,000	補 日本学術振興会
デジタル心電データを用いた心臓突然死リスク予測ツール構築	森田 宏	循環器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
高齢者のPlatypnea-orthodeoxia症候群に関する包括的研究	中川 晃志	IVRセンター	1,040,000	補 日本学術振興会
大動脈解離におけるインテグリンを介した病態機序の解明と新規治療の基盤構築	三好 亨	循環器内科	1,950,000	補 日本学術振興会
尿毒素による心不全発症・再発の病態解明と新規治療戦略の基盤構築	伊藤 浩	循環器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
特発性肺動脈性肺高血圧症由来肺動脈平滑筋細胞のエネルギー代謝の解明と治療薬の開発	赤木 達	循環器内科	1,560,000	補 日本学術振興会
本邦での妊娠中の抗凝固薬・抗血小板薬の投与実情についての調査	杜 徳尚	循環器内科	1,560,000	補 日本学術振興会
重症心不全に伴う二次性臓器障害の可逆性と予測指標の検討	岩崎 慶一朗	循環器内科	1,170,000	補 日本学術振興会
奇異性脳塞栓症に関与するハイリスクPFO形態を同定するスコアリングの開発	高谷 陽一	超音波診断センター	1,300,000	補 日本学術振興会
管空内DLCコーティングによる細径人工血管開存率向上の試み	村岡 玄哉	心臓血管外科	1,300,000	補 日本学術振興会
腸管スキャフォールドとコラーゲン結合型成長因子を用いた拍動性グラフトの創成	笠原 真悟	心臓血管外科	1,040,000	補 日本学術振興会
人工心肺使用手術が生体のHMGB1/HRG バランスに与える影響の網羅的検討	大澤 晋	医療安全管理部	1,560,000	補 日本学術振興会
β 3受容体作動薬の心筋虚血再灌流に及ぼす影響	黒子 洋介	心臓血管外科	1,040,000	補 日本学術振興会
DLCコーティングが血中エクソソームとHMGB1を介した異物反応に与える影響解析	辻 龍典	心臓血管外科	780,000	補 日本学術振興会
単心室症における急性右心不全に対する補助循環の検討	小谷 恭弘	心臓血管外科	2,860,000	補 日本学術振興会
心停止ドナーの心移植を目的とした心機能評価装置を搭載した体外式搬送システムの開発	廣田 真規	心臓血管外科	2,340,000	補 日本学術振興会
DLCコーティングによる抗感染性・抗血栓血管内長期留置型カテーテルの開発	小林 泰幸	心臓血管外科	1,820,000	補 日本学術振興会
SGLTが心筋虚血再灌流障害に与える影響の検討	横田 豊	心臓血管外科	2,470,000	補 日本学術振興会
安全かつ高効率誘導を実現する新世代型ダイレクトリプログラミング法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	1,950,000	補 日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
インソール型圧力センサで計測した歩行パタンによるパーキンソン病重症度推定の研究	武本 麻美	脳神経内科	2,080,000	補	日本学術振興会
ARDS亜急性期～慢性期の水素吸入による肺線維化抑制効果:モデルマウスによる検証	青景 聡之	救命救急科	1,300,000	補	日本学術振興会
高齢者の救急・集中治療に対してフレイルが及ぼす影響:多施設共同研究	内藤 宏道	救命救急科	1,690,000	補	日本学術振興会
水素吸入は補助的治療手段になりうるか? ショックモデルを用いた検討	藤崎 宣友	救命救急科	1,430,000	補	日本学術振興会
水素豊富食塩水管腔内投与による小腸移植グラフト保存への新しいアプローチ	中尾 篤典	救命救急科	910,000	補	日本学術振興会
肺毛細血管内皮細胞障害に対する水素ガスの有効性の検討	山田 太平	救命救急科	1,170,000	補	日本学術振興会
CORMを使った小腸グラフト虚血再灌流障害の予防	小原 隆史	救命救急科	1,430,000	補	日本学術振興会
人工乳房周囲におこる生体反応の分子組織学的検討と長期的カプセル拘縮の病態解明	渡部 聡子	形成外科	390,000	補	日本学術振興会
高機能化3D幹細胞塊の付加による新規脂肪移植法の開発	中桐 僚子	形成外科	1,560,000	補	日本学術振興会
肋骨付き前鋸筋弁の新たな展開と選択的逆行性穿通枝造影法の確立	松本 洋	形成外科	780,000	補	日本学術振興会
幹細胞産生因子を用い形成する脂肪移植至適環境の開発	太田 智之	形成外科	1,560,000	補	日本学術振興会
水素の抗炎症作用に着目したVV-ECMO中の新規抗凝固療法の基礎的研究	野島 剛	救命救急科	2,340,000	補	日本学術振興会
妊娠糖尿病における耐糖能異常発症分子機構の解明	渡邊 真由	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補	日本学術振興会
生殖機能獲得を目指した同性・異性間子宮卵巣同時移植の研究	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	780,000	補	日本学術振興会
3次元マルチオミックス解析による糖尿病性腎症の新規治療標的の探索と同定	宮本 聡	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
EGFR肺癌における第3世代EGFR-TKI耐性へのIL-6の関与と克服の検討	堀田 勝幸	新医療研究開発センター	1,690,000	補	日本学術振興会
インフラマソームを制御することによる糖尿病性腎症の新規治療法の開発	四方 賢一	新医療研究開発センター	2,210,000	補	日本学術振興会
人工知能による深層学習を応用した運動障害性咀嚼障害の多軸診断支援システムの開発	大野 彩	新医療研究開発センター	1,820,000	補	日本学術振興会
先進医療Bの薬事承認申請活用に関する品質確保のための研究	櫻井 淳	新医療研究開発センター	1,690,000	補	日本学術振興会
難治性大腸癌のPDXモデルを用いた薬剤耐性に関わる新規バイオマーカーの探索	矢野 修也	卒後臨床研修センター	780,000	補	日本学術振興会
インプラント周囲の骨吸収発生予知を目的とした歯槽骨骨密度評価の有用性の検討	黒崎 陽子	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
QOLの解釈可能性を高めるMIDの設定とフィードバックのためのウェブシステム開発	宮脇 義亜	新医療研究開発センター	2,340,000	補	日本学術振興会
ROS1融合遺伝子陽性肺癌における根治的薬物療法の開発	加藤 有加	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
医師の胃瘻造設に対する認識の違いは何に起因しているのか: 要因に関する探索的研究	坂本 陽子	新医療研究開発センター	780,000	補	日本学術振興会
再発性尿路感染症に対する乳酸菌陰立剤の有効性に関する基礎・臨床的エビデンスの構築	石井 亜矢乃	総合患者支援センター	1,300,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ジャボニカアレイを応用した肺移植後慢性拒絶反応の新しい診断法の開発	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	1,430,000	補 日本学術振興会
肝内胆管癌のエピジェネティクス解析による新規バイオマーカーと治療標的分子の探索	吉田 一博	臓器移植医療センター	1,430,000	補 日本学術振興会
骨粗鬆症が増殖因子と超音波療法を用いた硬組織形成に及ぼす影響の解明	山路 公造	歯科(保存歯科部門)	1,170,000	補 日本学術振興会
放射線う蝕の治療法の確立に向けたセルフエッチング接着システムの基礎的研究	松崎 久美子	歯科(保存歯科部門)	910,000	補 日本学術振興会
アルカリ産生性アクチノマイセス属細菌を応用したう蝕管理法の確立	大原 直子	歯科(保存歯科部門)	2,080,000	補 日本学術振興会
幹細胞ニッチの制御を目指したインテグリンペプチド療法の開発	山本 直史	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補 日本学術振興会
超高齢社会での応用を目指す低分子化合物terreinの標的分子の同定・機能解析	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
APPLICATION OF RvD2 AS A REGENERATIVE DIRECT PULP CAPPING MATERIAL	アリアス・マルティネス スレマ・ロサリア	歯科(歯周科部門)	1,690,000	補 日本学術振興会
歯周病原細菌の感染とタンパク質シトルリン化を介する関節リウマチの病態解明	畑中 加珠	歯科(歯周科部門)	1,690,000	補 日本学術振興会
歯周病原細菌におけるRNA結合蛋白質Hfqによる病原因子制御機構の解明	平井 公人	歯科(歯周科部門)	1,950,000	補 日本学術振興会
骨代謝におけるAdam10の機序の解明とそれを応用した新規骨関連事象抑制薬の開発	池田 淳史	歯科(歯周科部門)	2,210,000	補 日本学術振興会
HMGB1が歯周病に及ぼす免疫学的影響の解明とその制御による新規歯周病治療の検討	井手口 英隆	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
変形性関節症の発症予防を目指したWISP遺伝子の機能解析	前田 あずさ	歯科(口腔インプラント科部門)	780,000	補 日本学術振興会
咀嚼が認知機能に与える影響の検討および認知症早期診断バイオマーカーの網羅的探索	三野 卓哉	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
オーラルフレイル回避を目指した筋機能訓練の有効性検討と新規個別スキームの開発	水口 一	歯科(口腔インプラント科部門)	1,040,000	補 日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の骨髄微小環境と大腸菌由来BMP-2の応用	縄稚 久美子	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補 日本学術振興会
人工知能による機械学習を応用した咀嚼・嚥下運動の医療画像診断支援システムの開発	逢坂 卓	歯科(口腔インプラント科部門)	1,300,000	補 日本学術振興会
病的歯槽骨吸収の疾患定義とその原因遺伝子同定のためのゲノムワイド関連解析	中川 晋輔	歯科(口腔インプラント科部門)	1,950,000	補 日本学術振興会
顎関節症症状の難治化に関するリスク因子の解明および予測指標の開発	三木 春奈	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補 日本学術振興会
口腔内細菌による慢性腎臓病感染症発症メカニズム解明と口腔内環境との関連	小山 絵理	歯科(口腔インプラント科部門)	2,080,000	補 日本学術振興会
幹細胞ニッチの観点からの抜歯窩創傷治癒メカニズムおよびMRONJ病態の解明	三海 晃弘	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
iPS干渉法を利用した間葉系幹細胞の幹細胞性制御機構の解明	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	2,600,000	補 日本学術振興会
血管基底膜の加齢性変化に伴うCAR細胞老化に起因した骨髄老化メカニズムの解明	石橋 啓	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
MSCs・Mφ相互作用による組織再生起点メカニズム解明と組織再生加速技術の開発	田頭 龍二	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会
隠れマルコフモデルに基づいた睡眠時ブラキシズム検査における筋電図波形識別の試み	大森 江	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補 日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性インプラント周囲炎に対するBMP-2含有人工骨膜を応用した治療法の開発	納所 秋二	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
内在性MSCsの免疫調節能障害メカニズムの解明とインプラント周囲炎の新規治療戦略	黄野 頂策	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
光遺伝子操作技術を応用したBMP-2の新規機能・骨髄形成能の解明	田仲 由希恵	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
メタルフリー修復に対する長鎖シランカップリングを用いた新しい接着システム	丸尾 幸憲	歯科(補綴歯科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
高齢者の嚥下機能低下を防止する頸部表面筋電図を応用した日常運動の創製	萬田 陽介	歯科(補綴歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
CCN3を介した新たな軟骨細胞老化制御機構の解明	桑原 実穂	歯科(補綴歯科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
デンチャースペースの記録を可能にした新規CAD/CAM義歯製作方法の開発	徳善 貴大	歯科(補綴歯科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
神経が顎顔面形成に与える影響を考えるー顔面半側萎縮症と顔面半側肥大症の病因解明ー	川邊 紀章	矯正歯科	1,040,000	補	日本学術振興会
I型インターフェロンが顎顔面の形態形成に及ぼす影響	早野 暁	矯正歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
下顎骨後方移動術に伴う睡眠呼吸障害の発症リスクおよび施術基準の確立	中村 政裕	矯正歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
生体マルチモーダル解析を用いた骨形成・認知機能の複合的促進機構の解明	植田 紘貴	矯正歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
顎骨の形態決定におよぼすエピジェネティック制御の関与を探索	河野 加奈	矯正歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
永久歯先天欠如の要因となる新たな遺伝子変異の探索と歯牙形成に与える影響の解明	星島 光博	矯正歯科	2,080,000	補	日本学術振興会
歯槽骨の大規模三次元イメージングによる歯牙移動時の歯槽骨改造の解明	中條 真奈	矯正歯科	1,040,000	補	日本学術振興会
細胞内糖代謝をベースとした軟骨細胞における変形性関節症防御システムの解明	水川 朋美	矯正歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
I型インターフェロンが骨芽細胞に及ぼす影響について	田中 敦子	矯正歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
歯の形成におけるRUNX2によるCTGF/CCN2発現調節機構の解析	森谷 徳文	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
Hotz床治療による能動的顎誘導に向けた有限要素解析の応用	飯田 征二	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	2,470,000	補	日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる新規抗線維化作用のメカニズム解明	近藤 星	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
脱分化脂肪細胞を基盤とした新医療開発研究	藤田 佑貴	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
口腔癌の骨浸潤・骨転移において神経ペプチドCGRPが果たす役割と骨破壊制御機構	吉岡 徳枝	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
口腔癌におけるangiogeninレセプターplexin-B2の発現と機能解析	岸本 晃治	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
新規破骨細胞形成促進因子Angiogeninが口腔癌骨浸潤に果たす役割の解明	伊原木 聡一郎	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
脂質代謝を標的とした新規免疫抑制解除型治療の基盤研究	國定 勇希	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
内軟骨性骨化における軟骨細胞死の誘導機構: CCN2によるレドックス制御とその破綻	村瀬 友里香	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
人工知能を用いた口腔癌頸部リンパ節転移の診断システムの開発	小畑 協一	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
口腔癌エクソソームの網羅的解析による新規体液診断・治療体系の確立	小野 喜章	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
Gumbel法を用いた遠隔で運用可能な新規歯科的個人識別法の開発	岡田 俊輔	歯科(歯科放射線科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
AIを活用した頸部リンパ節転移に対する超音波検査診断支援システムの開発	竹下 洋平	歯科(歯科放射線科部門)	650,000	補	日本学術振興会
酸化ストレス可視化マウスにおける二次・三次喫煙による歯周病と全身への影響	福原 大樹	歯科(予防歯科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
口腔機能訓練を含む歯科介入は術後頭頸部癌患者のQOLを改善できるか	横井 彩	歯科(予防歯科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
がん化学療法に伴う歯周組織への影響に関する検討	丸山 貴之	歯科(予防歯科部門)	650,000	補	日本学術振興会
酸化ストレス可視化マウスによる、抗がん剤の酸化ストレスの検討	片岡 広太	歯科(予防歯科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
トリプトファンによる睡眠時ブラキシズムへの介入効果の検討	外山 直樹	歯科(予防歯科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
光誘導RNA導入法を応用した骨再生のための新規ドラッグデリバリーシステムの開発	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	2,470,000	補	日本学術振興会
歯周病菌P. gulaeが保有する病原因子の分子生物学的解析とその多様性の解明	稲葉 裕明	小児歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
歯科領域からの革新的治療法の開発を目指した口腔細菌に起因するIgA腎症の病態解明	仲 周平	小児歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
S. mutansの口腔バイオフィーム形成におけるストレス応答メカニズムの解明	八十川 友紀	小児歯科	1,950,000	補	日本学術振興会
Porphyromonas gulaeの歯肉上皮細胞侵入機構に関する線毛の役割	吉田 翔	小児歯科	1,950,000	補	日本学術振興会
大量化学療法による口腔粘膜障害発症メカニズムの解明	小林 優子	小児歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
口腔バイオフィーム形成に関わる新規ABCトランスポーターの同定と機能解析	後藤 花奈	小児歯科	2,340,000	補	日本学術振興会
S. mutansのシグナル伝達システムにおける分子シャペロンDnaKの機能解析	粕山 衣里	小児歯科	2,080,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性チャネル阻害薬の疼痛制御機構の解明	宮脇 卓也	歯科(歯科麻酔科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクス異常が唾液腺機能に及ぼす影響の検討	樋口 仁	歯科(歯科麻酔科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性チャネルは神経障害性疼痛にどのように関与するか	三宅 沙紀	歯科(歯科麻酔科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
要介護高齢者歯科医療での実践知の修得を促進させるシミュレーション教育モデルの開発	鳥井 康弘	卒後臨床研修センター(歯)	1,560,000	補	日本学術振興会
歯周病原菌由来の分泌小胞に着目した歯周病関連気管支・肺炎の病態解明	味野 範子	歯科(総合歯科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
プラーク内ゲノムDNAと歯周病との関連—ショットガンメタゲノムによる解析—	江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	1,430,000	補	日本学術振興会
がん化学療法中の好中球減少性発熱と歯内・歯周感染の関連の実証および治療効果の発信	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	1,300,000	補	日本学術振興会
術後絶食中のガム咀嚼は、食道がん手術後の予後を改善できるのか？	山中 玲子	医療支援歯科治療部	780,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経支配が腫瘍微小環境の形成と腫瘍の進展に及ぼす影響の解明	吉田 沙織	歯科総合診断室	1,430,000	補	日本学術振興会
ハニカムTCPを用いた細胞外微小環境制御による新規歯牙再生法の確立	稲田 靖則	歯科(歯科放射線科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
口蓋形態の個体差を利用した新規個人識別法の開発	柳 文修	歯科総合診断室	1,430,000	補	日本学術振興会
難治性悪性リンパ腫の分子病態の解明と新規治療法の探索	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	1,560,000	補	日本学術振興会
「persister」がん細胞マウスモデルによる肺癌の根治的薬物療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補	日本学術振興会
HER2標的薬に対する乳癌細胞の獲得耐性克服を目指した治療戦略の開発	枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補	日本学術振興会
Ips肺がんオルガノイドモデルを用いた新規治療法の開発	枝園 和彦	乳腺・内分泌外科	2,080,000	補	日本学術振興会
遠隔操作型針穿刺ロボットを用いたCT透視ガイド下生検の臨床試験(FIH試験)	平木 隆夫	放射線科	390,000	補	日本学術振興会
がんゲノム啓発を目的としたまんが教材を用いた教育効果の検証	十川 麗美	臨床遺伝子診療科	1,040,000	補	日本学術振興会
人工知能による深層学習を応用した運動障害性咀嚼障害の多軸診断支援システムの開発	大野 彩	新医療研究開発センター	1,820,000	補	日本学術振興会
海外輸入されたReady-to-Eat食品における薬剤耐性菌を用いた分子疫学解析	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	500,000	補	公益財団法人 寺岡記念育英会
岡山県全域を対象としたカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CPE)の分子疫学解析調査～薬剤耐性菌対策のための医療・行政ネットワークの形成を目指して	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	350,000	補	公益財団法人 両備てい園記念財団
VR(バーチャル・リアリティ)技術×手指衛生～最新技術で感染対策スキルを社会実装する～	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	1,000,000	補	公益財団法人 西川医療振興財団
臨床研修医の「内的動機付け」教育プログラム開発のための調査研究	徳増 一樹	総合内科・総合診療科	200,000	補	公益財団法人 岡山医学振興会
医療不信の源流～患者・医師信頼関係はどのようにつくられるのか～	徳増 一樹	総合内科・総合診療科	1,000,000	補	公益財団法人 上廣倫理財団
マルチオミクス解析による初発ならびに再発DLBCLの治療特異的バイオマーカーの開発研究	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
マルチオミクス解析による移植後免疫再構築の解明とGVHDを予測する分子遺伝子学バイオマーカーの開発研究	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	9,100,000	委	日本医療研究開発機構
難治がんに対するp53がん抑制遺伝子搭載武装化アデノウイルス製剤の実用化のための非臨床試験	藤原 俊義	消化管外科	110,110,000	委	日本医療研究開発機構
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援	木股 敬裕	形成外科	7,150,000	委	日本医療研究開発機構
遺伝子治療製品「Ad-SGE-REIC」の再発悪性神経膠腫対象第I/IIa 相試験	伊達 勲	脳神経外科	20,450,000	委	日本医療研究開発機構
脳腫瘍患者の網羅的ゲノム情報を用いた新規germline変異の解析	畝田 篤仁	脳神経外科	350,000	補	公益財団法人両備理園記念財団
針穿刺ロボットを用いたがんに対する低侵襲治療「CT透視ガイド下アブレーション」の検証的医師主導治験	平木 隆夫	放射線科	41,600,000	委	日本医療研究開発機構
遺伝性腫瘍の浸透率決定因子の同定と発癌予測モデルの開発	平沢 晃	臨床遺伝子診療科	1,000,000	補	公益財団法人大和証券ヘルス財団
遺伝性乳癌卵巣癌症候群サバイバーおよびプレサバイバーに対する情報提供と意思決定支援を目指した医療圏連携体制の構築	平沢 晃	臨床遺伝子診療科	500,000	補	公益財団法人がん研究振興財団
がん化学療法に伴う口腔粘膜炎症の疼痛緩和・発症制御を目指す新規口腔粘膜保護材の開発	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	49,289,000	委	日本医療研究開発機構

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
長期間海外派遣滞在費助成 課題名: Myo-CAD/CAMデンチャー作製のデジタル ワークフローの開発と無歯顎患者を対象にしたMyo-	三野 卓哉	歯科(口腔インプラント科 部門)	900,000	補 公益財団法人ウエスコ学 術振興財団
高齢者関節疾患を標的とした関節軟骨再生療法の 開発	土佐 郁恵	歯科(口腔インプラント科 部門)	500,000	補 小林孫兵衛記念医学振 興財団研究助成金
大腸菌発現系由来rhBMP-2含有 β -TCP製人工骨を 用いた顎骨再生療法	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科 部門)	16,939,000	委 日本医療研究開発機構
岡山県医療介護総合確保基金事業 「死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要 介護高齢者の尊厳を最後まで守る多職種連携口腔 栄養サービスの推進事業」	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科 部門)	3,044,580	委 岡山県

小計4件

合計278件

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hasegawa K, Hanayama Y, Obika M, et al.	総合内科・総合診療内科	Clinical and biochemical characteristics of patients having general symptoms with increased serum IgG4.	Mod Rheumatol. 2020 Jul;30 (4):721-728	Original Article
2	Yamamoto K, Hanayama Y, Hasegawa K, et al.	総合内科・総合診療内科	Clinical Relevance of Serum Prolactin Levels to Inflammatory Reaction in Male Patients.	Acta Med Okayama. 2020 Oct;74 (5):381-389	Original Article
3	Hagiya H, Ino H, Tokumasu K, et al.	総合内科・総合診療内科	Antibiotic literacy among Japanese medical students.	J Infect Chemother. 2020 Oct;26 (10):1107- 1109	Original Article
4	Otsuka F, Takahashi Y, Tahara S, et al.	総合内科・総合診療内科	Similar safety and efficacy in previously treated adults with growth hormone deficiency randomized to once-weekly somapacitan or daily growth hormone.	Clin Endocrinol (Oxf). 2020 Nov;93 (5):620-628	Original Article
5	Nakano Y, Hasegawa T, Kashino C, et al.	総合内科・総合診療内科	Aldosterone enhances progesterone biosynthesis regulated by bone morphogenetic protein in rat granulosa cells.	J Steroid Biochem Mol Biol. 2020 Oct;203:105738	Original Article
6	Tokumasu K, Harada K, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Gastrointestinal: Massive right pleural effusion caused by a pancreaticopleural fistula.	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Apr;35 (4):525	Case report
7	Harada K, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Cardiac mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma involved in IgG4- related disease.	Eur Heart J. 2020 Apr;41 (15):1519	Case report
8	Harada K, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Rigid Ears and Hyperpigmentation in Addison's Disease.	Am J Med. 2020 May;133 (5):e192	Case report
9	Harada K, Hagiya H, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Bilateral massive empyema with bronchopleural fistula.	Postgrad Med J. 2020 Sep;96 (1139):573	Case report
10	Harada K, Miyasaka E, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Calcinosis Cutis.	Am J Med. 2020 Sep;133 (9):e528-e529	Case report
11	Harada K, Yasuda M, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療内科	A rare case of oncocytic adrenocortical carcinoma clinically presented as an incidentaloma.	Endocr J. 2020 Aug;67 (8):883-888	Case report
12	Harada K, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Albright's hereditary osteodystrophy.	QJM. 2020 Dec;113 (12):899	Case report
13	Oka K, Yokota Y, Yasuda M, et al.	総合内科・総合診療内科	Adult-onset Still's disease accompanied noninfective endocarditis.	J Gen Fam Med. 2020 Jun;21 (6):268-269	Case report
14	Harada K, Otsuka F.	総合内科・総合診療内科	Ectopic hyperparathyroidism due to an auto-transplanted parathyroid gland.	Clin Case Rep. 2020 Jul;8 (11):2312-2313	Case report
15	Oka K, Yamane M, Yokota Y, et al.	総合内科・総合診療内科	Disseminated Mycobacterium genavense infection mimicking TAFRO syndrome.	J Infect Chemother. 2020 Oct;26 (10):1095- 1099	Case report

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Omura D, Ogata M, Sakane Y, et al.	総合内科・総合診療内科	Intra-arterial gas, a clue for diagnosis of peri-aortic inflammation due to infection.	Clin Case Rep. 2020 Sep;8 (12):3619-3620	Case report
17	Nakano Y, Sazumi Y, Mizuta Y, et al.	総合内科・総合診療内科	Gingival lesion leading to a diagnosis of angiosarcoma.	J Gen Fam Med. 2020 Nov;22 (2):90-91	Case report
18	Fujita M, Nakano Y, Honda H, et al.	総合内科・総合診療内科	Acute encephalopathy associated with severe fever with thrombocytopenia syndrome.	BMJ Case Rep. 2020 Dec;13 (12):e240075	Case report
19	Inokuchi T, Hiraoka S, Yasutomi E, et al.	消化器内科	Factors Predicting a Favorable Disease Course Without Anti-TNF Therapy in Crohn's Disease Patients.	Acta Med Okayama. 2020 Aug;74 (4):265-274	Original Article
20	Oyama A, Uchida D, Shiraha H, et al.	消化器内科	Serum REIC/Dickkopf-3 Protein Level Predicts Disease-Free Survival in Patients with Hepatocellular Carcinoma.	Acta Med Okayama. 2020 Jun;74 (3):237-243	Original Article
21	Yamasaki Y, Harada K, Yamamoto S, et al.	消化器内科	Blue laser imaging and linked color imaging improve the color difference value and visibility of colorectal polyps in underwater conditions.	Dig Endosc. 2020 Jul;32 (5):791-800	Original Article
22	Kinugasa H, Hiraoka S, Nouse K, et al.	消化器内科	Liquid biopsy for patients with IBD-associated neoplasia.	BMC Cancer. 2020 Dec;20 (1):1188	Original Article
23	Iwamuro M, Urata H, Tanaka T, et al.	消化器内科	Review of the diagnosis of gastrointestinal lanthanum deposition.	World J Gastroenterol. 2020 Apr;26 (13):1439-1449	Review
24	Maeda Y.	血液・腫瘍内科	Immune reconstitution after T-cell replete HLA haploidentical hematopoietic stem cell transplantation using high-dose post-transplant cyclophosphamide.	J Clin Exp Hematop. 2021 Mar;61 (1):1-9	Review
25	Makimoto G, Hotta K, Oze I, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Randomized study comparing mannitol with furosemide for the prevention of cisplatin-induced renal toxicity in non-small cell lung cancer: The OLCSG1406 trial.	Asia Pac J Clin Oncol. 2021 Feb;17 (1):101-108	Original Article
26	Makimoto G, Nishi T, Kawakado K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Successful Desensitization Treatment with Osimertinib after the Development of Osimertinib-induced Urticaria in a Patient Undergoing Treatment for Non-small Cell Lung Cancer Harboring the EGFR T790M Mutation.	Intern Med. 2020 Sep;59 (17):2161-2164	Case report
27	Ohashi K, Ninomiya K, Yoshioka H, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Impact of HER2 expression on EGFR-TKI treatment outcomes in lung tumors harboring EGFR mutations: A HER2-CS study subset analysis.	Lung Cancer. 2020 Dec;150:83-89	Original Article
28	Hotta K, Yanai H, Ohashi K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Pilot evaluation of a HER2 testing in non-small-cell lung cancer.	J Clin Pathol. 2020 Jun;73 (6):353-357	Original Article
29	Kubo T, Watanabe H, Ninomiya K, et al.	腫瘍センター	Immune checkpoint inhibitor efficacy and safety in older non-small cell lung cancer patients.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Dec;50 (12):1447-1453	Original Article
30	Katayama H, Tabata M, Kubo T, et al.	緩和支援医療科	Demand for weekend outpatient chemotherapy among patients with cancer in Japan.	Support Care Cancer. 2021 Mar;29 (3):1287-1291	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Ichihara E, Harada D, Inoue K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Characteristics of patients with EGFR-mutant non-small-cell lung cancer who benefited from immune checkpoint inhibitors.	Cancer Immunol Immunother. 2021 Jan;70(1):101-106	Original Article
32	Hirabae A, Ichihara E, Sunami R, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Rapid Disease Progression of Advanced Non-small Cell Lung Cancer Five Months after Cessation of Pembrolizumab.	Acta Med Okayama. 2020 Oct;74(5):423-425	Case report
33	Tanabe K, Wada J, Sato Y.	血液浄化療法部	Targeting angiogenesis and lymphangiogenesis in kidney disease.	Nat Rev Nephrol. 2020 May;16(5):289-303	Review
34	Katsuyama E, Miyawaki Y, Sada KE, et al.	リウマチ・膠原病内科	Association of explanatory histological findings and urinary protein and serum creatinine levels at renal biopsy in lupus nephritis: a cross-sectional study.	BMC Nephrol. 2020 Jun;21(1):208	Original Article
35	Kitamura S, Takahashi K, Sang Y, et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Deep Learning Could Diagnose Diabetic Nephropathy with Renal Pathological Immunofluorescent Images.	Diagnostics (Basel). 2020 Jul;10(7):466	Original Article
36	Nojima I, Eikawa S, Tomonobu N, et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Dysfunction of CD8 + PD-1 + T cells in type 2 diabetes caused by the impairment of metabolism-immune axis.	Sci Rep. 2020 Sep;10(1):14928	Original Article
37	Tsuji K, Kitamura S, Wada J.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	MicroRNAs as Biomarkers for Nephrotic Syndrome.	Int J Mol Sci. 2020 Dec;22(1):88	Review
38	Kawakita C, Mise K, Onishi Y, et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Novel urinary glycan profiling by lectin array serves as the biomarkers for predicting renal prognosis in patients with IgA nephropathy.	Sci Rep. 2021 Feb;11(1):3394	Original Article
39	Miyawaki Y, Shimizu S, Ogawa Y, et al.	リウマチ・膠原病内科	Association of glucocorticoid doses and emotional health in lupus low disease activity state (LLDAS): a cross-sectional study.	Arthritis Res Ther. 2021 Mar;23(1):79	Original Article
40	Iwasaki K, Seguchi O, Murata S, et al.	循環器内科	Effect of the Creatinine Excretion Rate Index, a Marker of Sarcopenia, on Prediction of Intracranial Hemorrhage in Patients With Advanced Heart Failure and a Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device.	Circ J. 2020 May;84(6):949-957	Original Article
41	Ichikawa K, Miyoshi T, Osawa K, et al.	循環器内科	Prognostic Value of Coronary Computed Tomographic Angiography in Patients With Nonalcoholic Fatty Liver Disease.	JACC Cardiovasc Imaging. 2020 Jul;13(7):1628-1630	Original Article
42	Asada S, Morita H, Watanabe A, et al.	循環器内科	Indication and prognostic significance of programmed ventricular stimulation in asymptomatic patients with Brugada syndrome.	Europace. 2020 Jun;22(6):972-979	Original Article
43	Saito Y, Nakamura K, et al.	循環器内科	Effects of Eicosapentaenoic Acid on Arterial Calcification.	Int J Mol Sci. 2020 Jul;21(15):5455	Original Article
44	Morita H, Asada ST, Miyamoto M, et al.	循環器内科	Significance of Exercise-Related Ventricular Arrhythmias in Patients With Brugada Syndrome.	J Am Heart Assoc. 2020 Dec;9(23):e016907	Original Article
45	Iwasaki K, Yoshitake K, Yagi N, et al.	循環器内科	Incidence, Factors, and Prognostic Impact of Re-Exploration for Bleeding After Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device Implantation - A Japanese Single-Center Study.	Circ J. 2020 Oct;84(11):1949-1956	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Ejiri K, Sawano M, Numasawa Y, et al.	循環器内科	Association of Second-Generation Drug-Eluting Stent Length With 2-Year Adverse Clinical Outcomes Among Japanese Patients With Ischemic Heart Disease.	JAMA Netw Open. 2020 Aug;3 (8):e2012546	Original Article
47	Tadokoro K, Ohta Y, Hishikawa N, et al.	脳神経内科	Discrepancy of subjective and objective sleep problems in Alzheimer's disease and mild cognitive impairment detected by a home-based sleep analysis.	J Clin Neurosci. 2020 Apr;74:76-80	Original Article
48	Tadokoro K, Fukui Y, Yamashita T, et al.	脳神経内科	Bone Marrow Stromal Cell Transplantation Drives Molecular Switch from Autophagy to the Ubiquitin-Proteasome System in Ischemic Stroke Mice.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 May;29 (5):104743	Original Article
49	Sasaki R, Ohta Y, Tadokoro K, et al.	脳神経内科	TTN missense variants in two siblings with asymmetric facial and limb weakness.	J Neurol Sci. 2020 Aug;415:116885	Case report
50	Sasaki R, Yamashita T, Tadokoro K, et al.	脳神経内科	Direct arterial damage and neurovascular unit disruption by mechanical thrombectomy in a rat stroke model.	J Neurosci Res. 2020 Oct;98 (10):2018-2026	Original Article
51	Taira Y, Yamashita T, Bian Y, et al.	脳神経内科	Antioxidative effects of a novel dietary supplement Neumentix in a mouse stroke model.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Aug;29 (8):104818	Original Article
52	Tadokoro K, Hishikawa N, Ikegami K, et al.	脳神経内科	A unique case of myasthenia gravis mimicking Garcin's syndrome.	Neurol Clin Neurosci. 2020 Jul;8 (6):399-402	Case report
53	Yamashita T and Abe K.	脳神経内科	Pathophysiology of Neuronal Cell Death After Stroke.	Stroke Revisited: Pathophysiology of Stroke. 2020 Jun;235-241	Original Article
54	Sasaki R, Omote Y, Tadokoro K, et al.	脳神経内科	A unique leukoencephalopathy accompanied by palmoplantar pustulosis with identical pathological feature of helper T cell accumulation.	Neurology Asia 2020 Sep;25 (3):415-418	Original Article
55	Sasaki R, Hishikawa N, Nomura E, et al.	脳神経内科	Tocilizumab-induced Leukoencephalopathy with a Reversible Clinical Course.	Intern Med. 2020 Nov;59 (22):2927-2930	Case report
56	Tadokoro K, Omote Y, Osakada Y, et al.	脳神経内科	A spontaneous recovery of anti-galactocerebroside antibody-associated encephalitis without evidence of Mycoplasma infection.	Neurol Clin Neurosci. 2020 May;8 (3):164-166	Original Article
57	Yamashita T, Kushida Y, Wakao S, et al.	脳神経内科	Therapeutic benefit of Muse cells in a mouse model of amyotrophic lateral sclerosis.	Sci Rep. 2020 Oct;10 (1):17102	Original Article
58	Yamamura Y, Matsumoto Y, Tadokoro K, et al.	脳神経内科	Recovery from hypoxemia and Hypercapnia following noninvasive pressure support ventilation in a patient with statin-associated necrotizing myopathy: a case report.	BMC Pulm Med. 2020 Jun;20 (1):156	Case report
59	Takemoto M, Ohta Y, Hishikawa N, et al.	脳神経内科	The Efficacy of Sertraline, Escitalopram, and Nicergoline in the Treatment of Depression and Apathy in Alzheimer's Disease: The Okayama Depression and Apathy Project (ODAP).	J Alzheimers Dis. 2020 Jul;76 (2):769-772	Original Article
60	Nomura E, Kawahara Y, Omote Y, et al.	脳神経内科	The Oldest Japanese Case of Combined Central and Peripheral Demyelination, which Developed Nine Years After the First Instance of Optic Neuritis.	Intern Med. 2021 Jan;60 (2):305-308	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Tanimoto T, Tazawa H, Ieda T, et al.	小児外科	Elimination of MYCN-Amplified Neuroblastoma Cells by Telomerase-Targeted Oncolytic Virus via MYCN Suppression.	Mol Ther Oncolytics. 2020 Jun;18:14-23	Original Article
62	Maeda N, Shirakawa Y, Tanabe S, et al.	低侵襲治療センター	Skeletal muscle loss in the postoperative acute phase after esophageal cancer surgery as a new prognostic factor.	World J Surg Oncol. 2020 Jun 26;18(1):143	Original Article
63	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	肝胆膵外科	Short-term and long-term outcomes in living donors for liver transplantation: Cohort study.	Int J Surg. 2020 Dec;84:147-153	Original Article
64	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	肝胆膵外科	Systematic review on immunonutrition in partial pancreatoduodenectomy.	Langenbecks Arch Surg. 2020 Aug;405(5):585-593	Original Article
65	Shigeyasu K, Toden S, Ozawa T, et al.	低侵襲治療センター	The PVT1 lncRNA is a novel epigenetic enhancer of MYC, and a promising risk-stratification biomarker in colorectal cancer.	Mol Cancer. 2020 Nov;19(1):155	Original Article
66	Iwamoto T, Kajiwar Y, Zhu Y, et al.	新医療研究開発センター	Biomarkers of neoadjuvant/adjuvant chemotherapy for breast cancer.	Chin Clin Oncol. 2020 Jun;9(3):27	Review
67	Iwamoto T, Hara F, Uemura Y, et al.	新医療研究開発センター	NSAS-BC02 substudy of chemotherapy-induced amenorrhea (CIA) in premenopausal patients who received either taxane alone or doxorubicin (A) cyclophosphamide (C) followed by taxane as postoperative chemotherapy.	Breast Cancer Res Treat. 2020 Jul;182(2):325-332	Original Article
68	Iwamoto T, Fujisawa T, Shien T, et al.	新医療研究開発センター	The efficacy of sequential second-line endocrine therapies (ETs) in postmenopausal estrogen receptor-positive and HER2-negative metastatic breast cancer patients with lower sensitivity to initial ETs.	Breast Cancer. 2020 Sep;27(5):973-981	Original Article
69	Takagi K, Buettner S, Ijzermans JNM, et al.	肝胆膵外科	Systematic Review on the Controlling Nutritional Status (CONUT) Score in Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer.	Anticancer Res. 2020 Oct;40(10):5343-5349	Review
70	Takagi K, Outmani L, Kimenai HJAN, et al.	肝胆膵外科	Learning curve of kidney transplantation in a high-volume center: A Cohort study of 1466 consecutive recipients.	Int J Surg. 2020 Aug;80:129-134	Original Article
71	Takagi K, Kuisse T, Umeda Y, et al.	肝胆膵外科	Laparoscopic liver resection of segment seven: A case report and review of surgical techniques.	Int J Surg Case Rep. 2020 Jul;73:168-171	Case report
72	Takagi K, Umeda Y, Kuise T, et al.	肝胆膵外科	A novel modified hanging maneuver in laparoscopic left hemihepatectomy.	Int J Surg Case Rep. 2020 Oct;76:251-253	Case report
73	Yano S, Tazawa H, Kagawa S, et al.	新医療研究開発センター	FUCCI Real-Time Cell-Cycle Imaging as a Guide for Designing Improved Cancer Therapy: A Review of Innovative Strategies to Target Quiescent Chemo-Resistant Cancer Cells.	Cancers (Basel). 2020 Sep;12(9):2655	Review
74	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	肝胆膵外科	Surgical training model and safe implementation of robotic pancreatoduodenectomy in Japan: a technical note.	World J Surg Oncol. 2021 Feb;19(1):55	Original Article
75	Takagi K, Kimenai HJAN, Terkivatan T, et al.	肝胆膵外科	Learning curves of minimally invasive donor nephrectomy in a high-volume center: A cohort study of 1895 consecutive living donors.	Int J Surg. 2021 Feb;86:7-12	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Yoshida K, Umeda Y, Iwamura M, et al.	肝胆脾外科	Hemobilia after bile duct resection: perforation of pseudoaneurysm into intra- pancreatic remnant, bile duct: a case report.	BMC Surg. 2020 Dec;20 (1) :307	Case report
77	Yano S, Tazawa H, Kishimoto H, et al.	新医療研究開発センター	Real-Time Fluorescence Image-Guided Oncolytic Virotherapy for Precise Cancer Treatment.	Int J Mol Sci. 2021 Jan;22 (2) :879	Review
78	Takahashi Y, Iwamoto T, Suzuki Y, et al.	内分泌センター	Evaluation of Therapeutic Target Gene Expression Based on Residual Cancer Burden Classification After Neoadjuvant Chemotherapy for HER2- Negative Breast Cancer.	Clin Breast Cancer. 2020 Apr;20 (2) :117-124	Original Article
79	Yamane M, Sugimoto S, Suzuki E, et al.	呼吸器外科	Continuing surgical education of non-technical skills.	Ann Med Surg (Lond). 2020 Aug;58:177-186	Original Article
80	Sugimoto S, Soh J, Suzawa K, et al.	臓器移植医療センター	Pulmonary aspergillosis as a late complication after surgery for locally advanced non-small cell lung cancer treated with induction chemoradiotherapy.	Surg Today. 2020 Aug;50 (8) :863-871	Original Article
81	Otani Y, Taira N, Doihara H.	乳腺内分泌外科	Desmoid-type fibromatosis of the breast mimicking cancer.	Jpn J Clin Oncol . 2020 Sep;50 (9) :1084- 1085	Original Article
82	Tanaka S, Luis Campo-Can averal de la Cruz J, Crowley Carrasco S, et al.	臓器移植医療センター	Effect on the donor lungs of using abdominal normothermic regional perfusion in controlled donation after circulatory death.	Eur J Cardiothorac Surg. 2020 Nov (オンラ イン)	Original Article
83	Maruyama Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	Factors predicting pathological upgrading after prostatectomy in patients with Gleason grade group 1 prostate cancer based on opinion- matched biopsy specimens.	Mol Clin Oncol. 2020 Apr;12 (4) :384-389	Original Article
84	Sadahira T, Wada K, Ishii A, et al.	泌尿器科	Preventive efficacy and safety of lactobacillus vaginal suppositories in women with recurrent cystitis: A phase 2 study.	Eur Urol Open Sci. 2020 Jul; (19) Suppl 2:e2036	Original Article
85	Yoshinaga K, Sadahira T, Maruyama Y, et al.	泌尿器科	Comparison of inflammation-based prognostic scores as predictors of survival outcomes in patients with germ cell tumors.	Investig Clin Urol . 2021 Jan;62 (1) :47-55	Original Article
86	Iwata T, Sadahira T, Ochiai K, et al.	泌尿器科	Tumor suppressor REIC/Dkk-3 and its interacting protein SGT1 inhibit glucocorticoid receptor to nuclear transport.	Exp Ther Med. 2020 Aug;20 (2) :1739-1745	Original Article
87	Sekito T, Araki M, Hiraki T, et al.	泌尿器科	Combined Laparoscopic and CT Monitoring of the Ice-Ball Margin during Cryoablation for Renal Cell Carcinoma Associated with von Hippel-Lindau Disease: First Case.	Acta Med Okayama. 2020 Oct;74 (5) :443-448	Case report
88	Yoshinaga K, Araki M, Wada K, et al.	泌尿器科	Low-dose rituximab induction therapy is effective in immunological high-risk renal transplantation without increasing cytomegalovirus infection.	Int J Urol. 2020 Dec;27 (12) :1136-1142	Original Article
89	Maruyama Y, Araki M, Wada K, et al.	泌尿器科	Long-term ureteroscopic management of upper tract urothelial carcinoma: 28-year single-centre experience.	Jpn J Clin Oncol. 2021 Jan;51 (1) :130-137	Original Article
90	Maruyama Y, Sadahira T.	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Maruyama and Dr Sadahira to Independent external validation of a nomogram to define risk categories for a significant decline in estimated glomerular filtration rate after robotic-assisted partial nephrectomy.	Int J Urol. 2021 Jan;28 (1) :79-80	Others

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Wada K, Araki M, Tanimoto R, et al.	泌尿器科	Photodynamic diagnostic ureteroscopy using the VISERA ELITE video system for diagnosis of upper-urinary tract urothelial carcinoma: a prospective cohort pilot study.	BMC Urol. 2021 Mar;21(1):45	Original Article
92	Kobayashi Y, Kotani Y, Kuroko Y, et al.	心臓血管外科	Norwood procedure with right ventricle to pulmonary artery conduit: a single-centre 20-year experience.	Eur J Cardiothorac Surg. 2020 Aug;58(2):230-236	Original Article
93	Watanabe T, Takabatake K, Tsujigiwa H, et al.	形成外科	Effect of Honeycomb β -TCP Geometrical Structure on Bone Tissue Regeneration in Skull Defect.	Materials (Basel). 2020 Oct;13(21):4761	Original Article
94	Nakagiri R, Watanabe S, Takabatake K, et al.	形成外科	Long-Term Effect of Honeycomb β -Tricalcium Phosphate on Zygomatic Bone Regeneration in Rats.	Materials (Basel). 2020 Nov;13(23):5374	Original Article
95	Saiga M, Hosoya Y, Utsunomiya H, et al.	形成外科	Protocol for a multicentre, prospective, cohort study to investigate patient satisfaction and quality of life after immediate breast reconstruction in Japan: the SAQLA study.	BMJ Open. 2021 Feb;11(2):e042099	Original Article
96	Miyake T, Iwatsuki K, Hirai Y, et al.	皮膚科	The aim of the measurement of Epstein-Barr virus DNA in hydroa vacciniforme and hypersensitivity to mosquito bites.	J Med Virol. 2020 Apr (オンライン)	Original Article
97	Yamasaki O, Takahashi E, Noda K, et al.	皮膚科	Surgical site infection caused by <i>Aeromonas hydrophila</i> presenting as necrotizing soft tissue infection after esophagectomy.	J Dermatol. 2020 Jun;47(6):673-676	Case report
98	Kajita A, Kawakami Y, Miyake T, et al.	皮膚科	Solitary fibrous tumor of the inguinal region displaying heterogeneous echogenicity and its correlation with histopathologic findings.	Our Dermatol Online. 2020 Apr;11(4):424-426	Original Article
99	Ikeda K, Takeichi T, Ito Y, et al.	皮膚科	Classical Vohwinkel syndrome with heterozygous p.Asp66His mutation in GJB2 gene: Second Asian case.	J Dermatol. 2020 Oct;47(10):e352-e354	Case report
100	Senoo H, Kawakami Y, Yokoyama E, et al.	皮膚科	Atezolizumab-induced lichen planus pemphigoides in a patient with metastatic non-small-cell lung cancer.	J Dermatol. 2020 Apr;47(4):e121-e122	Case report
101	Noda H, Kimura S, Morizane M, Hosokawa M, et al.	眼科	Effect of rhegmatogenous retinal detachment on preoperative and postoperative retinal sensitivities.	Sci Rep. 2020 Dec;10(1):21497	Original Article
102	Noda H, Kimura S, Morizane Y, et al.	眼科	RELATIONSHIP BETWEEN PREOPERATIVE FOVEAL MICROSTRUCTURE AND VISUAL ACUITY IN MACULA-OFF RHEGMATOGENOUS RETINAL DETACHMENT: Imaging Analysis by Swept Source Optical Coherence Tomography.	Retina. 2020 Oct;40(10):1873-1880	Original Article
103	Shibata K, Fujiwara A, Hamasaki I, et al.	眼科	Shape analysis of rectus extraocular muscles with age and axial length using anterior segment optical coherence tomography.	PLoS One. 2020 Dec;15(12):e0243382	Original Article
104	Morisawa S, Hamasaki I, Shibata K, et al.	眼科	Risk factors for excessive postoperative exo-drift after unilateral lateral rectus muscle recession and medial rectus muscle resection for intermittent exotropia.	BMC Ophthalmol. 2020 Jun;20(1):216	Original Article
105	Shibata K, Hamasaki I, Toshima S, et al.	眼科	Formulas to Estimate Appropriate Surgical Amounts of Unilateral Recession-Resection in Intermittent Exotropia with Distance-Near Disparity.	Acta Med Okayama. 2020 Jun;74(3):229-236	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
106	Kanzaki Y, Fujita H, Sato K, et al.	眼科	KCN113 Gene Deletion Impairs Cell Alignment and Phagocytosis in Retinal Pigment Epithelium Derived from Human-Induced Pluripotent Stem Cells.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2020 May;61(5):38	Original Article
107	Doi S, Kimura S, Morizane Y, et al.	眼科	ADVERSE EFFECT OF MACULAR INTRARETINAL HEMORRHAGE ON THE PROGNOSIS OF SUBMACULAR HEMORRHAGE DUE TO RETINAL ARTERIAL MACROANEURYSM RUPTURE.	Retina. 2020 May;40(5):989-997.	Original Article
108	Matsumae H, Morizane Y, Yamane S, et al.	眼科	Inverted Internal Limiting Membrane Flap versus Internal Limiting Membrane Peeling for Macular Hole Retinal Detachment in High Myopia.	Ophthalmol Retina. 2020 Sep;4(9):919-926	Original Article
109	Ando M, Kobayashi H, Shinozaki- Ushiku A, et al.	耳鼻咽喉科	Spinal solitary fibrous tumor of the neck: Next-generation sequencing-based analysis of genomic aberrations.	Auris Nasus Larynx. 2020 Dec;47(6):1058-1063	Case report
110	Kataoka Y, Maeda Y, Fukushima K, et al.	耳鼻咽喉科	Prevalence and risk factors for delayed-onset hearing loss in early childhood: A population-based observational study in Okayama Prefecture, Japan.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2020 Nov;138:110298	Others
111	Uraguchi K, Kozakura K, Fukuda M, et al.	耳鼻咽喉科	An autopsy case of Trousseau's syndrome with tumor thrombosis in unknown primary squamous cell carcinoma of the head and neck.	Int Cancer Conf J. 2020 Aug;10(1):15-19	Case report
112	Omichi R, Yoshimura H, Seiji B, Shibata, et al.	耳鼻咽喉科	Hair Cell Transduction Efficiency of Single- and Dual-AAV Serotypes in Adult Murine Cochleae.	Mol Ther Methods Clin Dev. 2020 May;17:1167-1177	Others
113	Makino T, Tachibana T, Kariya S, et al.	耳鼻咽喉科	Pathological evaluation of radiotherapy and concomitant intraarterial cisplatin for maxillary sinus cancer.	Auris Nasus Larynx. 2020 Oct;47(5):881-886	Others
114	Makino T, Orita Y, Gion Y, et al.	耳鼻咽喉科	MACC1 expression is an indicator of recurrence in early-stage glottic cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Apr;50(4):392-398	Others
115	Murai S, Sugiu K, Hishikawa T, et al.	脳神経外科	Safety and efficacy of staged angioplasty for patients at risk of hyperperfusion syndrome: a single-center retrospective study.	Neuroradiology. 2020 Apr;62(4):503-510	Original Article
116	Otani Y, Yoo JY, Chao S, et al.	脳神経外科	Oncolytic HSV-Infected Glioma Cells Activate NOTCH in Adjacent Tumor Cells Sensitizing Tumors to Gamma Secretase Inhibition.	Clin Cancer Res. 2020 May;26(10):2381-2392	Original Article
117	Yasuhara T, Kawauchi S, Kin K, et al.	脳神経外科	Cell therapy for central nervous system disorders: Current obstacles to progress.	CNS Neurosci Ther. 2020 Jun;26(6):595-602	Review
118	Yasuhara T, Murai S, Mikuni N, et al.	脳神経外科	Japanese National Questionnaire Survey in 2018 on Complications Related to Cranial Implants in Neurosurgery.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2020 Jul;60(7):337-350	Original Article
119	Uneda A, Hirashita K, Kanda T, et al.	脳神経外科	Primary Central Nervous System Methotrexate-associated Lymphoproliferative Disorder in a Patient with Rheumatoid Arthritis: Case Report and Review of Literature.	NMC Case Rep J. 2020 Jun;7(3):121-127	Case report
120	Hiramatsu M, Sugiu K, Yasuhara T, et al.	脳神経外科	Detection of the common origin of the radiculomedullary artery with the feeder of spinal dural arteriovenous fistula using slab maximum intensity projection image.	Neuroradiology. 2020 Oct; 62: 1285-1292	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Haruma J, Escalard S, Smajda S, et al.	脳神経外科	Left temporal hemorrhage caused by cerebral venous reflux of a brachio-brachial hemodialysis fistula.	Neuroradiology. 2020 Oct;62 (10):1341-1344	Original Article
122	Hiramatsu M, Sugiu K, Hishikawa T, et al.	脳神経外科	Detailed Arterial Anatomy and Its Anastomoses of the Sphenoid Ridge and Olfactory Groove Meningiomas with Special Reference to the Recurrent Branches from the Ophthalmic Artery.	AJNR Am J Neuroradiol. 2020 Nov;41 (11):2082- 2087	Original Article
123	Sasada S, Hiramatsu M, Kusumegi A, et al.	脳神経外科	Arteriovenous Fistula at the Craniocervical Junction Found After Cervical Laminoplasty for Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Neurospine. 2020 Dec;17 (4):947-953	Case report
124	Hiramatsu M, Sugiu K, Haruma J, et al.	脳神経外科	Dural arteriovenous fistulas in the parasellar region other than the cavernous sinus.	Journal of Neuroendovascular Therapy. 2020 Dec;14:593-604	Original Article
125	Hiramatsu M, Sugiu K, Haruma J, et al.	脳神経外科	Osseous arteriovenous fistulas in the dorsum sellae, clivus, and condyle.	Neuroradiology. 2021 Jan;63 (1):133-140	Original Article
126	Uneda A, Kurozumi K, Fujimura A, et al.	脳神経外科	Differentiated glioblastoma cells accelerate tumor progression by shaping the tumor microenvironment via CCN1-mediated macrophage infiltration.	Acta Neuropathol Commun. 2021 Feb;9 (1):29	Original Article
127	Ishida J, Alli S, Bondoc A, et al.	脳神経外科	MRI-guided focused ultrasound enhances drug delivery in experimental diffuse intrinsic pontine glioma.	J Control Release. 2021 Feb;330:1034-1045	Original Article
128	Tani M, Kanazawa T, Shioji N, et al.	麻酔科蘇生科	Successful treatment with positive airway pressure ventilation for tension pneumopericardium after pericardiocentesis in a neonate: a case report.	JA Clin Rep. 2020 Oct;6 (1):79	Case report
129	Tani M, Matsuoka Y, Sugihara M, et al.	麻酔科蘇生科	Two cases of intraoperative hemodynamic instability during combined thoracoscopic-laparoscopic surgery for esophagogastric junction carcinoma.	JA Clin Rep. 2021 Feb;7 (1):16	Case report
130	Hirai K, Baba K, Goto T, et al.	小児科	Outcomes of Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction in Children: Retrospective Comparison Between Bovine Jugular Vein and Expanded Polytetrafluoroethylene Conduits.	Pediatr Cardiol. 2021 Jan;42 (1):100-108	Original Article
131	Hirai K, Ousaka D, Fukushima Y, et al.	小児科	Cardiosphere-derived exosomal microRNAs for myocardial repair in pediatric dilated cardiomyopathy.	Sci Transl Med. 2020 Dec;12 (573):eabb3336	Original Article
132	Akiyama T, Toda S, Kimura N, et al.	小児神経科	Vitamin B6 in acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion.	Brain Dev. 2020 May;42 (5):402-407	Original Article
133	Tsuchiya H, Endoh F, Akiyama T, et al.	小児神経科	Longitudinal correspondence of epilepsy and scalp EEG fast (40-200 Hz) oscillations in pediatric patients with tuberous sclerosis complex.	Brain Dev. 2020 Oct;42 (9):663-674	Original Article
134	Akiyama T, Hyodo Y, Hasegawa K, et al.	小児神経科	Pyridoxal in the Cerebrospinal Fluid May Be a Better Indicator of Vitamin B6-dependent Epilepsy Than Pyridoxal 5'-Phosphate.	Pediatr Neurol. 2020 Dec;113:33-41	Original Article
135	Matsui Y, Iguchi T, Tomita K, et al.	小児放射線科	Radiofrequency Ablation for Stage I Non-Small Cell Lung Cancer: An Updated Review of Literature from the Last Decade.	Interventional Radiology. 2020 Apr;5:43-49	Review

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
136	Tanaka T, Yang M, Froemming AT, Bryce AH, et al.	放射線科	Current Imaging Techniques for and Imaging Spectrum of Prostate Cancer Recurrence and Metastasis: A Pictorial Review.	Radiographics. May-Jun 2020;40 (3) :709-726	Review
137	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線部	Difference in specimen weights with semi-automatic cutting biopsy needles.	Jpn J Radiol. 2020 Jun;38 (6) :579-586	Original Article
138	Matsui Y, Hiraki T, Iguchi T, et al.	小児放射線科	A Clinical Study Evaluating an Aspiration-type Semi-Automatic Cutting Biopsy Needle (SCIRO-1702).	Acta Med Okayama. 2020 Jun;74 (3) :209-214	Original Article
139	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線部	Survival Outcomes of Treatment with Radiofrequency Ablation, Stereotactic Body Radiotherapy, or Sublobar Resection for Patients with Clinical Stage I Non-Small-Cell Lung Cancer: A Single-Center Evaluation.	J Vasc Interv Radiol. 2020 Jul;31 (7) :1044-1051	Original Article
140	Matsui Y, Fujiwara H, Hiraki T, et al.	小児放射線科	Histological findings in non-tumoral liver and tumor after chemoembolization with drug-eluting beads.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Aug;29 (4) :217-223	Original Article
141	Tomita K, Iguchi T, Hiraki T, et al.	放射線科	Computed Tomography Fluoroscopy-guided Core Needle Biopsy of Abdominal Para-aortic Lesions: A Retrospective Evaluation of the Diagnostic Yield and Safety.	Interventional Radiology. 2020 Oct;5:128-133	Original Article
142	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線部	Image-guided core biopsy of 2-cm or smaller renal tumors.	Diagn Interv Imaging. 2020 Nov;101 (11) :715-720	Original Article
143	Gobara H, Yamamoto A, Komaki T, et al.	医療情報部	Needle Tract Ablation in Liver Tissue Using a Cryoprobe Combined with an Electrosurgical Device: Influence of ex vivo and in vivo Animal Models.	Acta Med Okayama. 2021 Feb;75 (1) :9-14	Original Article
144	Yoshio K, Nagasaka H, Hisazumi K, et al.	放射線科	Local Control of Squamous Cell Carcinoma of the Cervix Treated with CT-based Three-dimensional Image-Guided Brachytherapy with or without Central Shielding.	Acta Med Okayama. 2021 Feb;75 (1) :79-85	Original Article
145	Munetomo K, Matsui Y, Iguchi T, et al.	放射線科	Lung Laceration Caused by Short Hookwire Placement Before Video-Assisted Thoracoscopic Surgery.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2021 Feb;44 (2) :339-341	Case report
146	Gobara H, Hiraki T, Iguchi T, et al.	医療情報部	Oncologic outcomes and safety of percutaneous cryoablation for biopsy-proven renal cell carcinoma up to 4 cm in diameter: a prospective observational study.	Int J Clin Oncol. 2021 Mar;26 (3) :562-568	Original Article
147	Yamamoto H, Aokage T, Igawa T, et al.	救命救急科	Luminal preloading with hydrogen-rich saline ameliorates ischemia-reperfusion injury following intestinal transplantation in rats.	Pediatr Transplant. 2020 Nov;24 (7) :e13848	Original Article
148	Nojima T, Naito H, Obara T, et al.	救命救急科	Plastic Bronchitis in a Five-Year-Old Boy Treated Using Extracorporeal Membrane Oxygenation: a Case Report.	Arch Acad Emerg Med. 2021 Jan;9 (1) :e16	Case report
149	Yamamoto H, Hinoi T, Wakatsuki T, et al.	臨床遺伝子診療科	Dual Analysis of DNA-seq and RNA-seq Identified Two Independent Transcripts Caused by a Single Nucleotide Variant of MUTYH c.934-2A>G in Advanced Colon Cancer.	The OFFICIAL JOURNAL OF JAPANESE SOCIETY OF LABORATORY MEDICINE 2020 Dec;68 (12) : 973-979	Case report
150	Hirai K, Yamaguchi-Tomikawa T, Eguchi T, et al.	歯科 (歯周科部門)	Identification and Modification of Porphyromonas gingivalis Cysteine Protease, Gingipain, Ideal for Screening Periodontitis.	Front Immunol. 2020 Jun;11:1017	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Ikeda A, Yamamoto T, Mineshiba J, et al.	歯科(歯周科部門)	Follistatin expressed in mechanically-damaged salivary glands of male mice induces proliferation of CD49f + cells.	Sci Rep. 2020 Nov;10(1):19959	Original Article
152	Maekawa K, Ikeuchi T, Shinkai S, et al.	歯科(口腔インプラント科部門)	Number of functional teeth more strongly predicts all-cause mortality than number of present teeth in Japanese older adults.	Geriatr Gerontol Int. 2020 Jun;20(6):607-614	Original Article
153	Mikai A, Ono M, Tosa I, et al.	歯科(口腔インプラント科部門)	BMP-2/ β -TCP Local Delivery for Bone Regeneration in MRONJ-Like Mouse Model.	Int J Mol Sci. 2020 Sep;21(19):7028	Original Article
154	Nosho S, Tosa I, Ono M, et al.	歯科(口腔インプラント科部門)	Distinct Osteogenic Potentials of BMP-2 and FGF-2 in Extramedullary and Medullary Microenvironments.	Int J Mol Sci. 2020 Oct;21(21):7967	Original Article
155	Yamanaka-Kohn R, Shirakawa Y, Inoue- Minakuchi M, et al.	歯科(口腔インプラント科部門)	Association of dental occlusal support with the Prognostic Nutritional Index in patients with esophageal cancer who underwent esophagectomy.	Esophagus. 2021 Jan;18(1):49-55	Original Article
156	Kurosaki Y, Kimura-Ono A, Mino T, et al.	歯科(口腔インプラント科部門)	Six-year follow-up assessment of prosthesis survival and oral health-related quality of life in individuals with partial edentulism treated with three types of prosthodontic rehabilitation.	J Prosthodont Res. 2020 Dec (オンライン)	Original Article
157	Kuwahara M, Kadoya K, Kondo S, et al.	歯科(補綴歯科部門)	CCN3 (NOV) Drives Degradative Changes in Aging Articular Cartilage.	Int J Mol Sci. 2020 Oct;21(20):7556	Original Article
158	Maruo Y, Yoshihara K, Irie M, et al.	歯科(補綴歯科部門)	Flexural properties, bond ability, and crystallographic phase of highly translucent multi-layered zirconia.	J Appl Biomater Funct Mate. Jan-Dec 2020 (オンライン)	Original Article
159	Uchida- Fukuhara Y, Ekuni D, Islam MM, et al.	歯科(予防歯科部門)	Caries Increment and Salivary Microbiome during University Life: A Prospective Cohort Study.	Int J Environ Res Public Health. 2020 May;17(10):3713	Original Article
160	Ono K, Yoshioka N, Masui M, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科)	A case of oral cancer with delayed occipital lymph node metastasis: Case report.	Clin Case Rep. 2020 Jul;8(12):2469-2475	Case report
161	Sakamoto Y, Okui T, Yoneda T, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科)	High-mobility group box 1 induces bone destruction associated with advanced oral squamous cancer via RAGE and TLR4.	Biochem Biophys Res Commun. 2020 Oct;531(3):422-430	Original Article
162	Ono K, Sogawa C, Kawai H, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科)	Triple knockdown of CDC37, HSP90-alpha and HSP90-beta diminishes extracellular vesicles-driven malignancy events and macrophage M2 polarization in oral cancer.	J Extracell Vesicles. 2020 May;9(1):1769373	Original Article
163	Obata K, Okui T, Kishimoto K, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科)	Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorder Developed Ectopically in the Maxillary Gingiva and Bilateral Lungs.	Case Rep Med. 2020 Apr;2020:4814519	Case report
164	Nakamura T, Okui T, Hasegawa K, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科)	High mobility group box 1 induces bone pain associated with bone invasion in a mouse model of advanced head and neck cancer.	Oncol Rep. 2020 Dec;44(6):2547-2558	Original Article
165	Hoshijima M, Hattori T, Aoyama E, et al.	矯正歯科	Roles of Interaction between CCN2 and Rab14 in Aggrecan Production by Chondrocytes.	Int J Mol Sci. 2020 Apr;21(8):2769	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
166	Kono K, Tanikawa C, Murata Y, et al.	矯正歯科	Three-dimensional changes in the craniofacial complex associated with soft-diet feeding.	Eur J Orthod. 2020 Nov;42 (5):509-516	Original Article
167	Morikawa Y, Morimoto S, Yoshida E, et al.	小児歯科	Identification and functional analysis of glutamine transporter in Streptococcus mutans.	J Oral Microbiol. 2020 Aug;12 (1):1797320	Original Article
168	Inaba H, Yoshida S, Nomura R, et al.	小児歯科	Porphyromonas gulae lipopolysaccharide elicits inflammatory responses through toll-like receptor 2 and 4 in human gingival epithelial cells.	Cell Microbiol. 2020 Dec;22 (12):e13254	Original Article
169	Naka S, Wato K, Misaki T, et al.	小児歯科	Intravenous administration of Streptococcus mutans induces IgA nephropathy-like lesions.	Clin Exp Nephrol. 2020 Dec;24 (12):1122-1131	Original Article
170	Tatebe Y, Kanamitsu K, Kanzaki H, et al.	薬剤部	Delayed Methotrexate Elimination after Administration of a Medium Dose of Methotrexate in a Patient with Genetic Variants Associated with Methotrexate Clearance.	Acta Med Okayama. 2020 Dec;74 (6):545-550	Case Reports
171	Kikuoka R, Miyazaki I, Kubota N, et al.	薬剤部	Mirtazapine exerts astrocyte- mediated dopaminergic neuroprotection.	Sci Rep. 2020 Nov;10 (1):20698	Original article
172	Sada H, Kajizono M, Ushio S, et al.	薬剤部	The Efficacy and Safety of Lubiprostone for Constipation in Cancer Patients Compared with Non- cancer Patients: A Retrospective Cohort Study.	Biol Pharm Bull. 2020 Nov;43 (11):1699-1706	Original article
173	Masaoka Y, Kawasaki Y, Kikuoka R, et al.	薬剤部	Development of an appropriate simple suspension method for valganciclovir medication.	J Pharm Health Care Sci. 2020 Jul;6:16	Original article

小計8件

合計173件

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 研究者等の基本的責務、研究計画書の作成に関する手続き等、倫理委員会の活動、インフォームド・コンセントを受ける手続き等、個人情報保護法の安全管理、重篤な有害事象への対応、試料・情報の保管管理、モニタリング及び監査の実績、研究者等の教育研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回（倫理委員会） 年 1 3 回（臨床研究審査委員会）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 ・ 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 1 回
-----------------------	---------

・研修の主な内容

- ・ 医師、歯科医師等の特定臨床研究を行う者に対する研修会（11回）
- ・ 特定臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（7回）
- ・ 認定臨床研究審査委員会の委員に対する研修会（3回）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を地域連携研修登録医等として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	275 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	29 年	内科
岡田 裕之	消化器内科	科長	37 年	
前田 嘉信	血液・腫瘍内科	科長	28 年	内科
木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長	38 年	内科
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	29 年	内科
伊藤 浩	循環器内科	科長	38 年	
山下 徹	脳神経内科	科長	15 年	科長代理
藤原 俊義	消化管外科	科長	36 年	
八木 孝仁	肝・胆・膵外科	科長	38 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	27 年	外科
土井原 博義	乳腺・内分泌外科	科長	38 年	外科
荒木 元朗	泌尿器科	科長	23 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	30 年	
野田 卓男	小児外科	科長	37 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	34 年	
木股 敬裕	形成外科	科長	37 年	
森実 真	皮膚科	科長	21 年	
森實 祐基	眼科	科長	23 年	
安藤 瑞生	耳鼻咽喉科	科長	21 年	
山田 了士	精神科神経科	科長	38 年	精神科
伊達 勲	脳神経外科	科長	38 年	
森松 博史	麻酔科蘇生科	科長	27 年	麻酔科
塚原 宏一	小児科 小児血液・腫瘍科	科長	35 年	

小林 勝弘	小児神経科	科長	38	年	
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	30	年	麻酔科
増山 寿	産科婦人科	科長	34	年	産婦人科
平木 隆夫	放射線科	科長	25	年	
中尾 篤典	救急救命科	科長	28	年	救急科
柳井 広之	病理診断科	科長	25	年	
平沢 晃	臨床遺伝子診療科	科長	26	年	産婦人科
鳥井 康弘	歯科総合歯科部門	部門長	39	年	歯科
吉山 昌宏	歯科保存歯科部門	部門長	37	年	歯科
高柴 正悟	歯科歯周科部門	部門長	33	年	歯科
窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	科長・部門長	35	年	歯科
皆木 省吾	歯科補綴歯科部門	部門長	43	年	歯科
森田 学	歯科予防歯科部門	部門長	35	年	歯科
浅海 淳一	歯科歯科放射線科部門	部門長	37	年	歯科
宮脇 卓也	歯科歯科麻酔科部門	部門長	33	年	歯科
飯田 征二	口腔外科顎口腔再建外科部門	部門長	35	年	口腔外科
佐々木 朗	口腔外科口腔顎顔面外科部門	科長・部門長	40	年	口腔外科
上岡 寛	矯正歯科	科長	32	年	
仲野 道代	小児歯科	科長	28	年	
千田 益生	総合リハビリテーション部	部長	38	年	リハビリテーション科
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	部長	22	年	歯科
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	33	年	歯科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種の連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 前田 嘉信
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫、放射線部長 平木 隆夫、医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一、薬剤部長 座間味 義人、看護部長 岩谷 美貴子、総務課長 川口 克己、企画・広報課長 早川 みどり、医事課長 浜家 隆、各科診療科長・中央診療施設長

診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	保管場所		管理方法	
		岡山大学病院総務課		電子カルテで運用しているため、病歴資料についてはコンピュータによる集中管理を行っている。平成29年6月1日から文書管理システムを導入し、スキャナに取り込みされた紙文書については電子証明・タイムスタンプが付与され、電子カルテ上で原本として管理している。診療録の病院外への持ち出しは禁止している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	岡山大学病院総務課		
		各科診療日誌	岡山大学病院各診療科、中央診療施設		
		処方せん	岡山大学病院薬剤部		
		手術記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課		
		看護記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課		
		検査所見記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課		
		エックス線写真	岡山大学病院放射線部		
		紹介状	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、医療情報部、医事課		
	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課		
		従業者数を明らかにする帳簿	岡山大学病院総務課		
		高度の医療の提供の実績	岡山大学病院医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	岡山大学病院総務課		
		高度の医療の研修の実績	岡山大学病院総務課		
		閲覧実績	岡山大学病院企画・広報課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	岡山大学病院医事課		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	岡山大学病院医事課、岡山大学病院薬剤部		
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	岡山大学病院医療安全管理部		
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	岡山大学病院医療安全管理部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	岡山大学病院医療安全管理部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	岡山大学病院医療安全管理部		

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	岡山大学病院感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	岡山大学病院医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	岡山大学病院感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室、岡山大学病院医療安全管理部			

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	岡山大学病院企画・広報課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	岡山大学病院医事課
		医療安全管理部門の設置状況	岡山大学病院医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		監査委員会の設置状況	岡山大学法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	岡山大学病院医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	岡山大学法人監査室
		職員研修の実施状況	岡山大学病院総務課、岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	岡山大学病院総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 前田 嘉信	
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 早川 みどり、医事課長 浜家 隆	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3 階	
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続を行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療安全管理部 ・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・ 内部通報窓口の設置 ・ 外部監査の実施 ・ 特定機能病院間におけるピアレビュー ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有 無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 次の各事項を審議する。 ・ 病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること（省令第一条十一ニロについて実施） ・ 定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること（省令第一条十一ニハについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の実態及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 『入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況』及び『入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の実態及び発生前の状況の報告の実施状況』が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること（省令第一条十一ニロ、ハについて実施） ・ その他医療安全管理に関すること（省令第一条十一ニイ、ロ、ハについて実施）	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 麻薬の適正な取り扱いについて（全職員対象共通内容） 2) 医療機器安全管理体制の概要ほか（感染制御部と合同研修、全職員対象共通内容） 3) チームで「予兆」を考える チームRRS・心肺蘇生法（全職員対象共通内容）	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ マニュアルの整備
 - ・ インシデントレポートシステム
 - ・ ペイシェントセーフティマネジャー（当時の呼称は「リスクマネジャー」）の配置
 - ・ 医療安全管理委員会の設置
 - ・ 医療事故等調査委員会
 - ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 9 8 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染予防対策委員会 1回／月 合計12回 ・ リスクマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回／月 合計12回 ・ 感染制御部職員会議 1回／月 合計12回 以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。 ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 ・ 看護部感染対策委員会 1回／月 合計12回 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 感染防止の視点からの看護手順の作成 環境整備の状況把握と指導 ・ 新型コロナウイルス対策会議 1回／週 合計50回 ・ 新型コロナウイルスコア会議 適宜 COVID-ICTチーム、COVID-ERT（重症集中）チーム、COVID-BCT（ベッドコントロール）チーム 新型コロナワクチンWG、COVID-ICTコア会議、陽性者対応臨時会議	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 全職員対象院内感染対策講習会 2回／年(各会1回、②は医療安全研修会と合同開催) ①針刺し事故防止について、結核の院内感染予防について、COVID-19を踏み台にして感染対策スキルをボトムアップしよう、抗菌薬の適正使用について ②医療機器安全管理体制の概要、安全なMRI検査のために～もし体内金属が入っていたら～、人工呼吸器Servo-i取扱説明について、誤接続防止コネクタの導入（経腸栄養）、今冬のインフルエンザとCOVID-19に備えて、医療関係者で接種が必要なワクチンについて、当院におけるCOVID-19関連検査について、カルバペネム系抗菌薬の適正使用に向けて 2) 新規採用者研修 1回 3) 看護補助者に対する研修会 1回 標準予防策 講義 4) 臨床実習前の学生への講義 2回	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染予防対策委員会、リスクマネージャー会議、看護部感染対策委員会、看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。 ・ 感染制御部NEWSを1回／2ヶ月のペースで配信し、流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また、随時、所属長宛にその都度メール配信して注意喚起や情報提供を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容： 令和2年4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について（薬剤部）－ 令和2年7月 麻薬の適正な取扱いについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有 無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1) 医薬品の採用・購入・管理 2) 病棟・各部門への医薬品の供給 3) 患者への医薬品の使用 4) 病棟等における医薬品の管理 5) 医薬品情報の収集・管理・周知 6) 他施設との連携 7) 放射性医薬品の管理 8) 院内製剤の運用 9) 重大な有害事象の予防および対応（事故発生時の対応、教育・研修） 10) 医薬品関連の情報システムの利用	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有 無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 1) 近森del-Nido心筋保護液：左肘外側上顆炎 2) 経口ベクロメタゾンプロピオン酸エステル製剤：移植片対宿主病 3) LOX0-195：NTPK融合遺伝子をもったグリア神経細胞腫瘍 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) カリウム注射製剤のマニュアルの作成 院内のカリウム製剤投与に関するマニュアルを作成、運用開始 2) 薬袋・水薬ラベルへの患者IDバーコードの表示 配薬時のエラー対策（PDAによる患者認証）	

3) 薬剤部門システム薬品マスタへの薬品コメントの表示

薬剤投与時や調製時に必要な情報がある薬品に対して薬品コメントを付与した

4) 外用薬の処方オーダー時に用法支援

外用薬の適正使用の推進を目的に、外用薬の処方オーダー時に用法入力を支援する仕組みを構築した

5) 患者プロファイルのフリー登録アレルギー情報の移設

フリー登録されているアレルギー情報をシステム対応が可能となる患者プロファイルへ移設し、禁忌薬の誤投与防止体制を強化した

6) 医療安全強化月間の設定

医療安全管理部と協働し、院内における誤薬誤投与防止を目的に啓発ポスターの作成および病棟ラウンドを実施した。

7) その他

- ・ 薬品情報室では、医薬品の適正使用等に関連する情報を院内情報誌（DI-News）に掲載し、各診療科ならびに中央診療部門等に情報提供している。（昨年度：12報）
- ・ 医薬品の安全管理および適正使用に影響度が高い「プレアボイド報告」を医薬品の安全使用に対する警鐘事例としてPSM会議で報告している（昨年度：12例）。
- ・ 薬剤師が調剤および病棟業務を実施する中で、医薬品による有害反応の重篤化の回避、未然回避、さらには薬物治療効果の向上に貢献した事例および発生状況を分析し、その内容を医療安全管理委員会で報告し、院内で情報共有している（昨年度：12回）
- ・ 薬剤部内で発生したインシデント事例については、薬剤部内のリスクWGにて事例検討を行い、対応策の検討および部員への周知を行っている。（昨年度：12回開催）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①	医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
②	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年138回
	・ 研修の主な内容： ＜定期研修＞ ・ M R I 装置の安全性 ・ 放射線治療装置の安全管理 ・ R A L S 緊急時マニュアル ・ マイクロセレクトロンHDR-V2の安全性 ・ 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講(学会主催のもの) ・ 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について ・ 血液浄化装置： 同 上 ・ 除細動装置： 同 上 ・ 閉鎖式保育器： 同 上 ・ 注入ポンプ（PCAポンプ）： 同 上 ＜新しい医療機器導入時の研修＞ ・ IVR-CT の新規導入説明会 ・ 移動型撮影装置 の新規導入説明会 ・ 移動型透視診断装置 の新規導入説明会 ・ 除細動装 ・ 閉鎖式保育器 ・ 体外式ペースメーカー ・ SmartGene操作説明会 ・ ESAnalyzer操作説明会 ・ HLC-723 G11操作説明会 ・ 終夜睡眠ポリグラフィ検査装置の操作説明会 ・ 脳波計EEG-1260操作説明会 ・ 神経機能検査装置ニューロマスターG1の更新に伴う新規導入研修 ・ 超音波診断装置の操作説明会 ・ 血液成分分離装置：機器の取り扱いと注意事項について（輸血部医師）	
③	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
	・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ X 線 装 置：定期点検（機種により年1～4回）、使用前点検 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置：定期点検（年4回） ・ 診療用放射線照射装置：定期点検（年1回） ・ 人工心肺装置：定期点検（年1回）、日常点検（始業点検/終業点検） ・ 人工呼吸器：定期点検（年2回）、使用前点検 ・ 血液浄化装置：定期点検（年2回）、使用前点検、透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定、細菌培養（毎月） ・ 除細動装置：定期点検（年2回） ・ 閉鎖式保育器：定期点検（年2回） ・ 臨床検査機器装置：定期点検（機種により1～3回/年）、日常点検（始業時、終了時点検）	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集
 - ・ 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集
 - ・ 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 PMDA医療安全情報
 - ・ 栄養専用注入ポンプ：輸液セット装着に関するインシデントへの対応
 - ・ 神経麻酔分野新規格製品：コネクタ接続部の割れ、捻じ切れ事象多数発生への対応
 - ・ 医用テレメータデータ：送信不良に対する対応

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） 医師 ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内における医薬品の使用状況等の医薬品情報は、薬剤部の薬品情報室で情報収集を行っている。薬品情報室で把握した医薬品情報は、必要に応じて院内情報誌（DI ニュース）やペインシェントセーフティマネジャー会議（リスクマネジャー会議）で、院内の全部署に対して情報発信を行っている。 また、イエローレターやブルーレターのように特に重篤な情報については、薬剤部門システムから当該医薬品の処方医を抽出し、対象となる処方医へ情報提供を行っている。 情報提供した内容の周知の状況の確認については、情報発信する際に“医薬品情報に関する確認書”を添付し、院内の周知状況を確認している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品の使用状況の把握については、調剤時、病棟薬剤業務、さらには抗がん剤のレジメン確認時等の薬剤業務を実施する中で、それらの情報を収集している。 薬剤師が未承認薬等の使用を把握した際は、処方医に対して未承認薬等の使用であることの情報提供、処方の必要性、リスク対策、さらに処方の妥当性について処方医に確認を行う。 また、薬剤師が把握した未承認薬等の使用情報については薬剤部内で一元管理を行い、その情報は定期的に医療安全管理責任者へ報告している。 ・ 担当者の指名の有無 有 無 ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長） （所属：薬剤部 ， 職種 薬品情報室主任）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長(診療(医科)担当)をもって充てる。 定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 昨年度より、(岡山大学病院における診療記録の多職種による監査の運用に関する申合せ)の規定に基づいて、診療記録管理委員会で承認された、多職種監査チームによる監査を実施している。診療情報管理室では退院1週間後を目途に退院患者全体に対して量的監査(入院診療計画書、手術記録、退院時要約など)を実施している。加えて、質的監査も多職種監査とは別に、監査項目数を増やして実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。また、インフォームド・コンセントの実施状況については、定期的に、インフォームド・コンセント管理委員会委員長へ報告を行っている。 主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従(4)名、専任(1)名、兼任(30)名 うち医師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(16)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(2)名 うち看護師：専従(2)名、専任(0)名、兼任(2)名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 一 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。 二 事故、入院患者の死亡及びレベル3b以上のインシデント等病院長が認める事象が	

発生した場合における診療録の確認、患者又は家族への説明、当該事象の発生の原因究明と対応状況確認及びそれに基づく必要な指導に関すること。

三 医療に係る安全管理に関する連絡調整に関すること。

四 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。

五 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。

六 医療事故調査等支援団体に関すること。

七 その他医療事故の防止・医療の安全性の向上に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5 件）、及び許可件数（5 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 評価委員会の設置（医療安全管理部門の医師等を構成員に含む）
 - 業務（提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など）
 - 構成員（手術を行う部門（外科系）に所属する職員含む）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（34 件）、及び許可件数（34 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (☒ ・ 無)

・活動の主な内容:

評価委員会の設置 (医療安全管理部門の薬剤師を構成員に含む)
業務 (使用の条件及び使用の適否の決定に関すること (確認事項、従業者の遵守事項)、評価委員会への諮問、診療科との調整、使用症例の事後検証など)
構成員 (医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を含む)

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (☒ ・ 無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒ ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況: 年 130 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況: 年 92 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b以上の把握等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り (☒ (病院名: 鳥取大学 (紙面調査)) ・ 無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (☒ (病院名: 島根大学 (紙面調査)) ・ 無)
- ・技術的助言の実施状況
マニュアル改訂にあたって、インシデントレポートの報告いただきたい事象に「診療に関連した有害事象」、「医療行為や管理の中で、患者に有害事象が起こった、起こりかけた・起こることが容易に推測できた事象」を追加し、重大な合併症の発生を把握しやすくした。
院内死亡症例の報告様式について、病院情報システムにテンプレートを組み込ませ、患者カルテ情報を利用した報告書作成の仕組みを構築した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

初期対応窓口の総合患者支援センターとの連携について運用マニュアルを整備し、安全管理・医療事故に関することの相談専門窓口は医療安全管理部であることや、相談の流れをフロー図として明記している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和2年度は、令和2年4月2日に新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について等」について研修を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2020年度特定機能病院管理者研修(公益財団法人 日本医療機能評価機構)を下記の日程で受講した。

管理者(金澤 右): 2021年1月17日(日)、2021年1月28日(木)

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者(塚原 宏一): 2020年12月16日(水)

医薬品安全管理責任者(千堂 年昭): 2021年2月4日(木)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和元年11月に、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(一般病院3)を受審し、主に以下2点の整備が当院に必要との指摘があった。

① 急変前兆候を捉えて対応する仕組み

② 侵襲的処置において確実・安全に鎮静剤・鎮痛剤を使用するための体制

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

10月中旬に公表予定

・評価を踏まえ講じた措置

指摘に対し、院内にWGや委員会を立ち上げ、体制確保に向けた準備を行い、現時点で以下までの措置を講じた。

① 当院でのラピッドレスポンスシステム（RRS）の稼働を決定し、モデル病棟から順次運用を開始した。2021年10月より全病棟への拡大を計画している。

② 鎮静剤・鎮痛剤について麻酔医の管理外での使用を安全が担保されるまで全面禁止した。

使用開始に向けて、医療者教育と並行し、鎮静剤・鎮痛剤を使用する検査や処置を行う医療者対象の院内認定制度を創設し、2021年9月から制度を稼働した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 ・ 基準の主な内容 ○人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること ○リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること ○医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ○大学ホームページにて公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ・ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法 ○大学ホームページにて公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
那須 保友	理事 (研究担当)	○	病院を含めた大学の組織運営について総合的に担当する立場であるため。	☒ 有 ・ 無
大塚 愛二	大学院医歯薬学 総合研究科		病院と深く関連のある部局の長であるため。	☒ 有 ・ 無
中塚 幹也	大学院保健学研究科		病院と深く関連のある部局の長であるため。	☒ 有 ・ 無
浅沼 幹人	大学院医歯薬学 総合研究科		病院と深く関連のある部局の長であるため。	☒ 有 ・ 無
長塚 仁	大学院医歯薬学 総合研究科		病院と深く関連のある部局の長であるため。	☒ 有 ・ 無
三好 伸一	大学院医歯薬学		病院と深く関連のある部局の	☒ 有 ・ 無

	総合研究科		長であるため。	
宗宮 昌子	岡山大学病院		病院看護部の長であり、病院経営に関わる立場であるため。	有・無
徳山 久丈	岡山大学病院事務部		病院事務部の長であり、病院経営に関わる立場であるため。	有・無
松田 正己	株式会社山陽新聞社		企業経営に対して幅広い見識を有する学外者であり、大局的な視点で選考に関わってもらうため。	有・無
松山 正春	岡山県医師会		医療行政に対して幅広い見識を有する学外者であり、大局的な視点で選考に関わってもらうため。	有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じて次の事項について審議を行う。 ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ・ 合議体（診療科長等会議）の構成員である診療科長等から、所属診療科内へ周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
前田 嘉信	○	医師	病院長、副病院長、診療科長、教授、センター長
森実 真		医師	副病院長、診療科長、教授、部長
大塚 文男		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長
増山 寿		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長、室長
浅海 淳一		歯科医師	副病院長、部門長、教授、部門長、室長
伊野 英男		医師	副病院長、教授
上岡 寛		歯科医師	副病院長、診療科長、教授
塚原 宏一		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、室長
岩谷 美貴子		看護師	副病院長、看護部長
岡田 裕之		医師	診療科長、教授、部長
木浦 勝行		医師	診療科長、教授
和田 淳		医師	診療科長、教授、部長、センター長

伊藤 浩		医師	診療科長、教授
草野 展周		医師	診療科長、教授
藤原 俊義		医師	診療科長、教授、センター長
八木 孝仁		医師	診療科長、教授
豊岡 伸一		医師	診療科長、教授、センター長、バンク長
土井原 博義		医師	診療科長、教授
荒木 元朗		医師	診療科長、講師
笠原 真悟		医師	診療科長、教授、部長
野田 卓男		医師	診療科長、教授
尾崎 敏文		医師	診療科長、教授
木股 敬裕		医師	診療科長、教授、センター長
森實 祐基		医師	診療科長、教授
安藤 瑞生		医師	診療科長、教授
山田 了士		医師	診療科長、教授
伊達 勲		医師	診療科長、教授
森松 博史		医師	診療科長、教授、部長、センター長
大月 審一		医師	診療科長、教授
小林 勝弘		医師	診療科長、教授
岩崎 達雄		医師	診療科長、教授
松井 裕輔		医師	診療科長、講師
岡田 あゆみ		医師	診療科長、准教授
平木 隆夫		医師	診療科長、教授、室長、部長、センター長
中尾 篤典		医師	診療科長、教授、センター長
柳井 広之		医師	診療科長、教授
田端 雅弘		医師	診療科長、教授、センター長
平沢 晃		医師	診療科長、教授
鳥井 康弘		歯科医師	部門長、教授
吉山 昌宏		歯科医師	部門長、教授
高柴 正悟		歯科医師	部門長、教授
窪木 拓男		歯科医師	診療科長、教授、室長
皆木 省吾		歯科医師	部門長、教授

森田 学		歯科医師	部門長、教授
宮脇 卓也		歯科医師	部門長、教授
飯田 征二		歯科医師	部門長、教授
佐々木 朗		歯科医師	診療科長、教授
仲野 道代		歯科医師	診療科長、教授
千田 益生		医師	部長、教授
吉野 正		医師	部長、教授
曾我 賢彦		歯科医師	部長、准教授
四方 賢一		医師	部長、教授
稲垣 兼一		医師	センター長、准教授
難波 祐三郎		医師	センター長、教授
平岡 佐規子		医師	センター長、准教授
西田 圭一郎		医師	センター長、准教授
江草 正彦		歯科医師	センター長、教授
柳 文修		歯科医師	室長、教授
郷原 英夫		医師	部長、教授
片岡 仁美		医師	センター長、教授
王 英正		医師	教授
渡部 昌実		医師	教授
堀田 勝幸		医師	教授
座間味 義人		薬剤師	薬剤部長、教授
本田 貢		放射線技師	医療技術部長
仲井 精一		事務	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学のホームページにて公表
- ・ 規程の主な内容
(1) 病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
(2) 病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ以下の業務を分担している。
(1) 総務運営担当 (2) 企画・SDGs担当 (3) 診療（医科）担当 (4) 診療（歯科）担当
(5) 教育（医科）担当 (6) 研究（医科）担当 (7) 教育・研究（歯科）担当
(8) 医療安全管理担当 (9) 看護・患者サービス担当
また、病院長、副病院長、病院長補佐、医療情報部長、看護部長、事務部長等で組織された経営戦略会議において病院の経営戦略（企画・分析）に関する事項等について検討・協議を行っている。
なお広報については、事務部に企画・広報課を置き対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
(1) 病院長の職務を円滑に遂行させるため、副病院長を複数名置き、それぞれ管理運営に関する業務を分担している。
(2) 特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）に管理者、医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年2回（令和3年度第1回委員会を令和3年7月6日に実施、第2回委員会を令和3年12月14日に開催予定） ・ 活動の主な内容： ○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。 ○安全管理状況及び改善状況について審議する。 ○病院の業務状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。 ○審議の結果に基づき、学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。 ○審議の結果及び監査意見を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（☒有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☒有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法：ホームページに掲載						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を 付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
松山 正春	岡山県医師会（会長）	○	医療に係る安全管理 に関する識見を有す るため	有・ ☒ 無	1	
長谷川 威	岡山中央法律事務所 （弁護士）		法律に関する識見を 有するため	有・ ☒ 無	1	
清板 芳子	ノートルダム清心女子 大学（名誉教授）		医療を受ける者の代 表者	有・ ☒ 無	2	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人岡山大学内部統制規則に基づき、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進並びに資産の保全を図るため、当該組織及び所掌する業務における内部統制の整備及び運用状況について、内部統制委員会に定期的に報告を行うこととしている。内部統制委員会では、定期的に報告される内部統制の整備及び運用状況に基づき、是正措置を講じた内容等について、必要に応じて当該措置の妥当性の検証を行っている。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 公表の方法

○大学ホームページにて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 - 国立大学法人法（平成15年法律第112号）の規定に基づき、経営協議会を設置して、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学経営戦略会議を設置し、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 年 5回 大学経営戦略会議 年45回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有・無 ） （経営協議会 年 5回 大学経営戦略会議 年45回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有・無 ） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規程、委員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人岡山大学経営協議会 国立大学法人岡山大学大学経営戦略会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 通報件数 (年 1 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 周知の方法
 - ホームページに掲載
 - 医療安全ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 市民等を対象とした公開講座等の開催 病院HPにおいて診療体制や診療データ等について情報発信をしている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科等の連携によるセンターの設置をしている。 複数の診療科で構成する中央診療施設の設置をしている。	